
札幌 経営コンサルタント 松尾大生 超絶エッセイ集

北海道 札幌市 経営コンサルタント 松尾大生 札幌市 北海道

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

札幌 経営コンサルタント 松尾大生 超絶エッセイ集

【Nコード】

N6632Q

【作者名】

北海道 札幌市 経営コンサルタント 松尾大生 札幌市 北海道

【あらすじ】

つれづれなるままのエッセイを集めました

丸裸の鳥の股間に前バリを

夜更かししてしまった……。気がついたら、12月31日である。

自分はお盆がくる度に、

「ああ、また、生き延びて盆を迎えられたなア……」

と、思うし、先日はクリスマスケーキを見ながら、

「クリスチャンじゃないんだが、既に文化だから仕方ない……今年も妻子とベックと、4人でクリスマスパーティーできたかア……。また、生き延びたなア……」

と、そんな風に思っていたら、なんていうの？ ニワトリだか七面鳥だか知らないが、大型の鳥の丸揚げが、テーブルの上にある……。無様に丸裸で、首をちょん切られ毛を剥がれて調理されておる……。

（可愛いそうに）

と、思いながら、よく見ると、両足を広げて、パンツも履かせてもらえず、股間がさらけ出されている……。

自分は、いたたまれない気分になって、眼前の寿司から、長方形のイカのネタだけ、箸でとって、鳥の股間にソツと置いてあげた。昭和の時代というストリップ等の「前バリ」である。

（……これで一安心！）

と思っていると、今度は、

「食べ物になんてことするの？ 意味わかんないしイッ」

妻が目を釣り上げて、キィッ、と、怒っている。

（この、女性は何で怒るのだろうか？）

と、自分が不思議な顔で鳥の股間の前バリを見つめていると、

「パパが、悪い！」

と、小学校一年生の息子。

妻は、休みに入ってから、更に毎日、怒っているような気がする。
そうして、妻が自分を怒る度に、息子は、

「パパが悪い！」

と繰り返す。

妻は、毎日のように、自分に怒り、息子に怒り、ベックに怒って、

「まったく、あんた方、三人はア……」

と、目を釣り上げている。最近、気がついたんだが、もしかすると、この女性にとっては、自分と息子、ベックを毎日おこりながら世話することが、

「無上の幸福なのではあるまいか」

……と、分かってきた。物凄い潔癖症で、俺が台所に立ち尻を掻くだけでおこるし、息子が、居間のドアを閉め忘れたら激怒するし、ベックがソファアーに横たわるだけでも、やっぱり、怒る。怒りながら、なんだかんだと、我々三人の世話をしている……。

昔読んだ、チェーホフの「可愛い女」という小説を思い出す。ブツブツ言いながら人の世話を焼くことでしか幸福を感じられない女をチェーホフという大昔のロシア人は「可愛い」と感じたみたいだが、

●大きなお世話！

……という言葉も日本語には、ある。同居人の息子の母親である秋田系のハーフ顔の女性は、ロシア人ではなくて、まぎれもなく日本人なのだ。

日本人ふうの可愛い女って、どんな女？

自分は、通の間では当代随一と評価の高い小説家の宮本輝さんの「^{きんしゅう}錦繡」の中に出てくる、主人公じゃない方の、あの関西人の女性を思い出す。惚れた男（一方の主人公）と、同棲しながら、男を養い、男に自分の思いついた商売を始めさせようとする……。プライドの高い男が、そんな仕事は出来ない旨伝えたと、

「そんなこと、言うたら、あんたを飼うこといった意味があらへん……」

男は、「飼うこ」と言う表現に笑ってしまい、女の言う通りの商売に励むようになる……。やがて商売は成功し二人は結婚。

日本ふうの可愛い女とは、そうだ、「錦繡」^{きんしゅう}に出てくる、あの女だ、
と、思う。従順でありながら、一見、愚かそうに見えて、その実ほ
んとうは知恵があり、上手に男を手のひらの上で自由に遊ばせなが
らコントロールする。そんな、日本風の「可愛い女」は、関西人に
は多いのだろうが、北海道には少ない。

趣味の問題だから全くの自分の勝手なのだが、自分は、白人女性に
性的魅力を感じたことがない。若い頃にはデモンストレーションで、
時々ナンパしていたが、電話番号を聞いて、実際に電話したことは
一度もない。生理的に、どうも、ダメみたい。自分は東アジア、殊
に日本女性、更にハーフやクォーター顔の色白でモチ肌の女性が好
きだった。そうなると、どうしても、秋田系か、北海道では実際は
少ないのだが、アイヌ系となる。アイヌ系の女性の美しさを、本州
の男性諸氏は知るまい……。めったに出逢えないのだが、ハーフや
クォーターより美しいかもしれない。なぜなのだろう？

昔、アイヌ系の女の子の友達がいて、よく遊んでいた。名字と出身
地と外見から、自分は即座にアイヌ系と理解した。あんまり綺麗で
スタイルも良いから、自分はミスコンに推薦した。彼女はやがて、
ミス札幌になった。自分は仲間とともに、彼女と同期のミス札幌す
なわち「雪の女王」と、複数で、何回かコンパをしたことがある。
他の一人のミス札幌の子とは、なんだか相性が合って、自分は彼女
と友人になったが、アイヌ系の子との美しさの格差は、歴然として
いた……。もう一人のミス札幌は、芸術家だった。東京の芸術系大
学を出て、芸術スクールで音楽講師をやっていて、自分とは大変に
話があい、はつきりと、

「私の好みは松尾さん……」

と、すら言われたが、アイヌ系の子との美しさの格差、それから何と言っても

当時の親友の男が芸術家の雪の女王に惚れ込んでしまって彼女の実家に通い始めたので、譲ったのだが……。芸術家の女性は遊ぶには最高だが、結婚向きには出来ていない……。そんなことは、芸術家の男性と同じように、古くからの常識。自分が芸術家のミス札幌を友人に譲ったことを知った彼女は同じ芸術スクールのプロピアニストを、自分に紹介してくれた。

（また、芸術家かア……）

と、思ったが、ひどく美しい子だった。彼女を紹介してくれたミス札幌Ⅱ雪の女王よりも数段美しく清楚であったが、本流の古典的な硬派のピアニストであり、芸術にしか価値を見いだせないでいた若い自分は、彼女に一目置いて、手を出さなかった。芸術家と結婚する気はなかったし、アイヌ系の一番美しい子には彼氏がいたし……。そうこうしているうちに、ピアニストはロシアにピアノ留学で旅立っていった。親友の芸術家の雪の女性は結局、俺の親友の男を上手にふって、その後、地場の大手企業の御曹司と結婚。一番美しかったアイヌ系の親友は、元々の彼氏の普通のサラリーマンと結婚。雪の女王に、ふられた親友の男は億万長者であったが、俺の元彼女に上手に誘導されて、結婚し、ぷつぷつと連絡が途絶えた。今、自分は相当に危ない話を書いている？ 誰もかれもGoogleしたら多分、相当に検索に引っかかる地元の有名人ばかりである。

自分はこれらのグループと知り合う前から、一番、美しいと思っていた秋田系の女の子と、結婚。普通の子がいいのである。芸術家は、厄介である。同じく海外でなんだか賞を受賞したピアニストと結婚経験のある同年輩の友人の医師が芸術家の女のの恐ろしさを教えてくれたことがある。

「松尾さん、分かっていると思うが、芸術家の女は怖いよ。俺、浮気した時、ピアノストの女房に出刃包丁で追いかけてさア……。家から逃げ出し、走ってラーメン屋に逃げ込んだら、ピアノスト、出刃包丁持ったまんま、ラーメン屋の中にまで入って来てさア……。ラーメン屋のオヤジが『奥さん、奥さん、気を確かに！』と言ってなんとか止めてくれたけど、あの事件がきっかけで、別れたよ……。芸術家は、松尾さん、怖いよオ」

ああ、ヤバイヤバイ。また実名でGoogleしたらかなり引かかる有名人の話になっている……。

つまりだ。結婚するならば、普通の女が一番だと思って、自分は芸術家ではない普通のOLと結婚したが……。

毎日、この始末である。怒られてばかりの毎日……。しかも、七歳児と犬と並列的に、

「あんた方は、まったくもうッ！」

と、言われ続けて、自分がいくら稼ごうが自分の小遣いは1日に五百円。少しでもネット関係の友人は、みんなネット悪魔で、古くからのお客と飲みに行く時には、お金をくれるのに、mixiなんかのマイミクさんからお誘いがあっても、絶対にお金をくれない。旧司法試験組の弁護士からのお誘いすら、『悪徳弁護士』と決めつけて、お金をくれなかった。そういうことだったんですよマイミクの中○先生。せっかく誘ってくれたのに面目ないです……。

そこで今日、個人的に歓楽街でmixi人脈と飲む金を作る計画を立てたが、……要するに帳簿上存在しない顧客企業に営業してコン

サルをいれてだなァ……、まあ、これは自営業ならば妻に隠れてみんなやっていることだろうが、うちの妻は大手の経営コンサルタント会社出身で申告書から決算書まで作れてしまうから、会計士の介入を許さない。どうにでも言うことを聞く会計士や税理士が自分のリアル人脈にすることは見抜かれており、……これから、会計学戦争が極秘に水面下で行われようとしている。帳簿上存在しないと、当然、税務署の反面調査のリスクがあるから、合法的方策は考えなければならぬが、この勝負、自分に軍配が上がるだろう。今は労働法や年金より会計学が得意なくらいだが、ただ、簿記が、簿記グウアアッ！

自分はアダルトチルドレンだから、意図的に、秋田系かつ、共依存を形成しようがない気の強い、「芸術家ではない」「普通の」オナを選んだのだが……。

結論。

女なんてものは、芸術家であろうが普通のOLであろうが、共依存を形成しかねない日本風の良いオナであろうが、みんな同じく扱いづらい生物である。こんなことしたら、「錦繡」^{きんしゅう}的な日本風・可愛い女の、あの子か、……あの子にしておけばよかったとも思うが、なにせ若い頃の妻はタイプは違うが、例のアイヌ系の雪の女王に負けない程、美しかった。妖精みたいだった。変われば変わるモンである……。子供を産んで40過ぎてから、すっかり「普通の」オバサンになった。俺はオジサンになった。男って奴は、オジサンになると、優しくなるもんである。だから、若い頃ならあり得なかった丸裸の鳥の股間に、いたわるように、ソツと寿司のネタの長方形のイカを置いたら、

「キャアッー」

「パパが、悪い」

ベックは意味もなく同調して走り回っているし、もう滅茶苦茶だア！

仕方ないから、自分は再び、丸裸の鳥の股間からイカの前バリを割り箸で持ち上げて、口に入れた。油臭い刺身になっていた……。

そうして、毎日、怒られてているうちに、もう、今年最後の日。紅白歌合戦を見せられる日……この紅白歌合戦という古い番組は、非常に、自分の美意識を、毎年、一年の総決算みたいに汚してくれるが、息子の母親のオバサンは大好きなのだ。

どこが、いいのか、率直に言って、ショーミ、わからんでやア……まだ、アニマックスの方がマシだでやア！

このまま、運が良ければ、自分はまた、生き延びて、新しい年を迎えることになるわけだ。

生き延びていくことが大切だ。生きていても、丸裸にされて、丸揚げにされて、大股開きにされて股間をさらけ出した鳥みたいな可愛いような生き方はするなよ、自分……と、思う。

誰も、前バリは貼ってくれないのが、実社会である……、そう、妻は、きつと実社会の人なのだ。だから、丸揚げにされた鳥に容赦ないんだよ、そうだよ、きつと。

でもなア……。

前バリは、つけてやれば、いいのに。

捨て置かれた道端の亡骸なきがらにすら、ゴザをかけてあげる優しさもまた古くからの実社会の伝統では？

丸揚げにされて股間をさらけ出した丸裸の鳥に、イカの寿司ネタを股間に貼ってやる優しさも許されない世の中になったのだろうか……。

あの時かいま見た、皿の上のネタを失った寿司は、緑色のワサビだけを乗せて、孤立していた……。

そうか、俺は、あの時に、可愛いそうな鳥の股間から、イカの前バ리를、口に入れず、寿司に戻すのが、ただしかったに違いない。

きつと、妻の側からは、俺が親切なこととしてるように見えずに、無意味に寿司を裸にして、しかも、寿司ネタのイカを元の場所に戻さなかったから、息子の母親のオバサンに怒られたのだろう。一つ覚えた！

●寿司ネタは外したら、元に戻す！

そういうことだったんだ。妻には角度的に丸裸の鳥の恥じらいが理解できずに、寿司の寂しさだけが見えた。だから怒ったんだ。そうか、そうだったんだ

カッティングをやめてペッティングをしましょう

いまでも昔も、知人や、mixiのマイミクさんにも複数人、カッティングしている女性の方々がおります。

カッティングするくらいなら、誰でもいいからペッティングすれば？

また、自殺を考えている女性に言いたい。自殺して骨になってしまいうくらいなら、俺と○ックスしてくれませんか。

死ぬ気になれば俺みたいな汚いオヤジとでもできるでしょう？ 何だってできる筈だ。俺も遠慮なく、強引なことができる。

★カッティング

★自殺

この二つを考えている女性がいらっしやいましたら、御一報ください。

一汗かきましょう。

切る気も死ぬ気もなくなる筈です。

どういうわけか、俺と○ックスした女性は、人生の方向が好転する傾向にあります。これは事実だから仕方ない。

ノイローゼの女性、酒のんで暴れたり、周囲に迷惑かけるくらいな

ら、ベットの中で俺に迷惑かけてください。俺が犠牲になります。

摂食障害の女性、何も食べられませんか？ そのまま死んでしまうつもりですか。死ぬくらいなら、……。ベットで俺を食べさせてあげます。死ぬ気になれば何でも食べれるでしょう？

リスカ、アムカ、……。切ろうかな、と思ったら御一報くださいね。

世の中には本当に女性に飢えた男性が多い。

チビデブ貧乏、変質者、意外と老人ホームのお爺さん達……。

そんなあなたとでも、やりたい男はたくさんいるんですよ。

口のまわりがベタベタしていて、なんか気持ち悪く、目つきは嫌らしく、とうてい女性から相手にされないような男性にでも、死ぬ気になれば、身を委ねられる筈。

ちょっと待ったア！

死ぬ前に、俺にメッセーজください！

あなたの半生は他人に迷惑ばかりかけてきた人生だったのでは？
こんな自分が他人と関わることは申し訳ないと思っておるのでは？

最期に社会の為に、俺の為に、あなたにできる償いをしてから逝ってください。

死ぬ気なんですからどんな変態プレイも勿論OKでしょう？ だって、じき、あなたはいなくなるのだ。恥も外聞もヘノカップの筈。

御一報ください。

また、死ぬ気も切る気もなくても、

「こんな自分には存在価値がない」

と悩んでいる女性の方、あなたは俺にとっては存在価値あるのです。
どんなふう to 存在価値あるか、ベットのの中で教えて差し上げましょう。

御一報ください。

セックスの練習

人間、四十五歳にもなると、過去の経験量が多くなり、色々なことが想い出される。俺だけ？

まるで、色々なデータをダウンロードし過ぎて重たくなったパソコンみたい。パソコンと同じく、容量を増やせばよいのだろうか、なかなか人間としての容量の増えない自分がいる。未熟である。

俺は、悪い意味で、本を読みすぎたし、これも、悪い意味で、幼い頃から、青年時代の終わり頃まで、雑多なことを経験し過ぎた。遠回りばかりで、マイナス経験ばかりの人間だ。

ご存知のように、若い頃は、セックス依存症状と言える状態にあった。

様々な女性と、関係を持った。

あの頃の俺はセックスしたい一心で、様々な、女性に対するアプローチを考案していたなァ、と思う。

あの頃、セックスに対する情熱を仕事に向けていたら、今頃、ビルが建っていたことだろう。

女性とは、今もって、神秘的で不可解な存在だと感じる。

ストレートに、

「セックスしよう」

と言っても、なかなか、応じてこない。例外はあったが……。

女性に対しては、間接的な話法が効果的だった。

俺「キスしようか」

女性「キスは嫌」

俺「キスに慣れていないの？　じゃあ、キスの練習しよう」

女性「そうね。練習だったらいいかな？」

同じく、女性というものは、セックスは、させてくれないが、

●セックスの練習

ならば、喜んで受け入れてくれるものであった。

練習とは言っても結局、セックスする訳だから、練習でも何でもないのだが、なぜか、「練習」という言葉を入れるだけで、女性はセックスを受け入れやすくなるようであった。

真面目な女性ほど、子供時代から、ピアノにお稽古、勉強もそうだが、「練習」という言葉に対して、何やら義務感のようなものが生じるのではないかと思うが、これは推測だ。

俺「ラブホテルいかない？」

女性「いや！」

俺「絶対に何もしないから」

女性「本当に何もしない？」

俺「添い寝しよう。添い寝だけならいいだろう？」

女性「うーん。添い寝だけならいいかな？」

勿論、添い寝だけで終わる訳がなかった。ただし、本当に好みの子の場合は、初回は、本当に添い寝だけした。すると、二回目からは、セックスに結びついて、長続きした。

女性に対しては、また、

●試してみよう！

と言う言葉も有効だった。

俺「セックスしようか」

女性「いや」

俺「ところで、俺の車の運転、うまいと思う？」

女性「わからないわよ」

俺「車の運転のうまい男はセックスも上手いんだってさ。セックスの上手い男は車の運転も上手いという。信じる？」

女性「へえ、そうなんだあ……。わからないわよ」

俺「試してみようか。試すだけならいいだろう？」

女性「試すだけならいいかな……」

そうして、ホテルに行って試すことになるのだが、お試しだろうが何だろうが、セックスは、セックスであった。

俺「セックスしようか」

女性「いやよッ」

俺「セックスは大切な行為だよ」

女性「そんなこと言ったって……」

俺「セックスの練習だけならいいだろう？ 何でも、ちゃんと練習しておかないと、駄目だよ……」

女性「練習なら仕方ないかな？」

なんのことはない。今、思えば、女性だって、セックスは好きなのだ。ただ、ストレートなアプローチには素直には応じられない生き物なのだろう。

また、強引だが、こう言う手もあった。

俺「そうそう、俺、君と付き合うことに決めたからね。分かったね！」

女性「ええ！ そんなこと言われても……」

俺「考えるな。いつから頭で考える女になったんだい？ もう、俺、決めてしまったことなんだよ」

女性「仕方がないわね。わかったわよ」

女性には、考えさせてはいけない。

女性を思考停止状態に誘うのに、最も有効な言葉は、意外にも、

「考えるな」

というストレートな一言であった。

女性の懷に飛び込んで、

「考えるな」

と言ったら、素直な子ほど、本当に考えるのを止めるように思う。

また、この手もよく使った。

俺「君には本当に、お世話になった。でも、俺、貧乏だし、なんのお返しもできないよ。残念だ」

女性「そんなこと気にしないでいいわよ。お世話してないし」

俺「いや、感謝しているよ。なんのお返しもできないから、せめて

カラダでかえすから。それしか感謝の表し方、知らないんだよ」

女性「そんなお返し、いらないわよ」

俺「気持ちだけでも受け取ってくるよ。感謝の気持ち」

女性「うん、気持ちだけなら、いいかしら」

勿論、感謝の気持ちは、セックスという形になるのは当然であった。

感謝の気持ちは、行動に表してこそ、通じるものであると女性を説得した。大抵、説得は通じた。

俺「男と女って何から始まる？ A？ B？ C？」

女性「何よ、それ」

俺「Aはセックス。BはS M。Cは、スカト……」

女性「バカ。変態」

俺「ダイレクトにCから始めようか」

女性「気持ち悪い」

俺「じゃあ、仕方ない。Aからはじめない？」

女性「うーん、考えておくわよ」

俺「考えるな。Aから、はじめるからね。わかったの？」

女性「仕方がないわね。わかったわよ……」

まったく、ナンパ道は奥深いものであった。

これらのテクニックを、もちいなくても、簡単にセックスさせてくれたのは、18、19歳くらいの十代の女の子達であった。これには、なにか、痛々しいものを感じていたし、もの足りなかったから、俺は十代には、あまりアプローチしなかったが、数人とは関係をもった。今頃は、彼女達も、三十歳位の一番綺麗な時代を迎えていることだろう。

何もかも、懐かしい。しかし、全ては、セックス依存症という病気のなせる技だったろう。女性から、もてていた訳でもなかったろう。ただ、ひたすら、俺は、女性に対して、しつこかった。そこに愛はなかった。結果、一番傷ついたのは自分自身であつたろう。反省である。

こうした、熾烈なセックス遍歴を経たのも一因だが、冒頭に述べたように、今、データをダウンロードし過ぎたパソコンみたく、俺は重たくなってしまっている。

繰り返すが、パソコンと同じく、容量を増やせば、いいのだ。人間としての容量を！

そうすれば、また、軽くなることだろう。

人間にとって、容量とは、何か？

勿論、心の広さであろう。

●じゃあ、どうやったら、心は広くなるのだろうか？

と、いう疑問自体が、本当は、ナンセンスなのであろう。本来、人間の容量は、無限大の筈だ。

自分の潜在意識の奥深くから、無限大の容量を、引っ張り出してしまえばよいのだ。

そうすれば人間は、蘇生する。

これも、パソコンと同じ原理だろう。

軽くなる。

もしドラッカーがジャパニメーションを観たら

夕べ、夜中にエヴァンゲリオン・破をまた観た。三回目だから含みの意味も込めて、サードインパクトと副題に入れたが……。

二回目に観た時に、初めて気づいたのだが、どうも、あの、綾波レイちゃんって、クローンだということは知っていたが、実は碇指令の亡くなった妻、つまり碇シンジ君のお母さんのクローンである……この事実に気づいて、ますますヤバイぞこりゃあ、と思った。

「リリース」という言葉もよく登場するが、観衆はリリースの根源的な意味が分かっているのだろうか？ 恐ろしいことだ。

エヴァンゲリオンは人間の深淵にまで迫ろうとしており、その手法は真言密教的であり、これにも危険水域を感じる。

昔のサムライが使っていた日本刀は、当時の日本のテクノロジーの結晶であった。サムライは日本刀を武士の魂とした。これは極めてフラ一的なテクノロジーと人間の紳学的な融合現象が既に起こっていたことを意味する。サムライは、よほどのことがない限り剣を抜かない人々だった。しかし稀に抜いてしまったら、もうおしまいである。日本刀というテクノロジーと融合して人間ならざる殺人マシーンとなる……宗派はともあれ、その為の瞑想までしていたのがサムライ……。サムライが抜刀する時は日本刀というテクノロジーとの融合により、日本の意味での神になっていた例も稀ではなかったらう。

エヴァンゲリオン・破を三回みて、エヴァンゲリオンとは日本刀か？ ともおもったが、これは刀匠を先祖に持つ自分の偏った見方か

もしれない。

ドラッカーいわく、

「マーシャル・マクルーハンは電子メディアによって、われわれが世界を見たり解釈する方法が変化し、その結果、われわれは考える人間から感じる人間に変わったと宣言している。しかし、西洋人の知覚についての見方は、日本美術の理解を通して知りうるころでは、ずっと早い時代から変化してきており、しかも電子技術とはなんのかかわりもないという結論に達せざるをえない。反対に西洋で電子技術を受け入れる用意ができていたのは、その知覚が伝統的な描写と分析から、日本人が昔から持っていたデザインと位相数学の知覚に変化したからであると考えたほうがよさそうである」

これも、三十年前のドラッカーの論文「日本美術を通してみた日本」からの引用だ。

ドラッカーの論文の中でもトップクラスの優れた論文だから、これは漫画やアニメ関係者は読んだ方がいいかもしれない。「日本 成功の代償」（ダイヤモンド社）という本の巻末にあるから、興味があるなら読むといい。フロイトの芸術論すら超えている。世阿弥の芸術論にすら匹敵する論文だと思う……、と言ったらドラッカー自身が恐縮しそうだが、日本人である自分にとっては、西洋人のドラッカーの分析は世阿弥と同じくらいに美しい。

ドラッカーが「日本の美意識」

あるいは「位相的方法論」として日本人の美意識を表現する場合、前提にあるのが位相数学である。位相数学とは「1700年頃に成立した数学の1分野で、面と空間の特性を取り扱う学問であり、そこでは物の形や線は空間によって表現され、そのため直線と、双曲

線のような曲線との区別がない。位相数学の取り扱うものは角度とか渦巻きとか境界線とかである。それは何が空間を規定しているかではなく、空間が何を規定しているかという学問」である。そうしてドラッカーは日本人の視覚が位相数学的だと断じるが、これは当たっているだろう。

中国人や西洋人は、視覚的に、まず、物や人物、風景そのものから入る。われわれ日本人は、まず全体の空間（視界）を把握してから空間の中の物や人物として事象を見る。これは極めて日本人的な見方であり、この相違をまず認識しないと外国人とのコミュニケーションのデザインも上手く設計はできない。

この位相数学的な視界は黒澤明監督の構図に特に顕著である。黒澤ファンならば分かると思うが、黒澤さんの映像の中には、まず空間を全面に押し出していて、人物や風景は空間の中の事象として配置している。異様な程、空間を空けて、人物を配置するところに特徴がある……。

同じ論文の中で、ドラッカーさんはこんな逸話も掲載している。

「ピカソは1953年にパリで禅僧であり画家である仙崖（没年1838年）の画業を集めた日本の美術展に連れて行かれた。彼はそれが偽物だと大声で叫びながら会場を走り出て行った。彼の、つまりピカソの作品を見ないで、誰も最初にそのような絵を画けるはずがないというのがその理由であった」

これは本当の話であるとすれば、事件である。自分は日本人のピカソ信者に数多く会ってきたが、いつも違和感を覚えてきた。彼等のピカソに対する情熱に魂を感じないのである。自分は正直な人間である。ピカソを評価していない。なぜならば原因は自分が日本人だ

からだろう。

自分は浮世絵や日本美術には、かなり、疎い人間ではある。

昔、大学の図書館の画集室に1ヶ月間通って、西洋の近代絵画を鑑賞したが、率直に言って、なあ〜んも、感銘を受けなかった。しいて言えばピカソが全く評価しなかったダリと、あと、シャガールには少しだけ感銘を受けたが……。

ところが浮世絵の画集を観た時には、息が詰まる程、感動して、まるで吸い込まれるみたいだった。学生時代の話である。

浮世絵には瞬間の中に永遠性があつた。浮世絵と言えども絵だから、空間上では静止している筈の人物までが脳内では動くのである……。本当に凄い！　と思ったものだ。

要するに、日本人の他の多民族との顕著な違いは、視覚的な空間の捉え方にあり、これが、思考様式や仕事のやり方まで支配しているのである。世界の民族は多様でありそれぞれ特徴があると思うが、日本人の場合はこの位相数学的な視覚や思考様式に特徴があるだろう。

大掃除をする。中国人や西洋人は、まずは、家電や、机などの物から磨くのではないだろうか。妻を観察していて気づくのだが、日本人のお掃除は、まずは空間から、整理して、掃除機をかけて、物は最後に磨く方が多いのではないか？

まあ、このドラッカーの論文は位相数学的に日本人のマネジメントにまで言及しているから、ビジネスパーソンズにも必見である。

それではなぜ、日本人は位相数学的な空間認識から入る美意識と思考様式を持つのか？日本人が潔癖症と外国人から評価を受ける「永遠の謎」も、この位相数学的な生活様式に根源があると思うが、それじゃあなぜ日本人が位相数学的な空間認識をするのかは、自分には分からない。推測はできるが……。この点について解説すると、それこそ自分の神学的素養の全てをさらけ出さねばならない。反感も買う筈。

自分はジャパニメーションオタクが怖いから、あまり、刺激的なことは書きたくないが、視覚芸術的に江戸期の全盛期よりもジャパニメーションは数百年遅れている……と発言しているから、ジャパニメーションオタクは怒るだろう。繰り返すが自分はヤクザも幽霊も怖くないが、オカマとジャパニメーションオタクだけは怖い。共通点は愛の深さである。若いころ、ゲイバー勤務のニューハーフさんからストーカー被害を受けた経験があるのだ。詳細は割愛。

今の最先端の漫画やアニメの哲学的な共通点は、「自己との対峙」であると思う。マイミクさんによると、志郎正宗さんにせよナウシカの原作にせよ、この自己との対峙がテーマであるという。その為にエヴァンゲリオン破では、密教的な神学の危険水域にまで達してしまった。

ジャパニメーションには位相数学的な美学の極点はまだ遠いし、視覚芸術から自己との対峙するというテーマでは、既に芭蕉が完成させてしまっている。芭蕉は文学的視覚芸術と人格の完成を融合させて、そうして見事に成功してしまった。芭蕉は当時のそこいらの禅僧よりも、遥かに深い精神性を開花させていたと思う。自己との対峙どころか、視覚芸術から自己の完成に成功したのである。だから、浮世絵の時代の美意識に比較してジャパニメーションが数百年遅れている、と、書いた。オタクの方々、怒らないでいただきたい。繰

り返すが芸術とは多様性の原理であり解釈もまた多様なのである。だから芸術の解釈には議論の余地はない。互いに認めあうしかないのだ……。

芭蕉は視覚芸術から自己完成に至るために神学をつかったか？ 芭蕉ほどの人物に日本的な神学の素養がなかったわけがない。芭蕉は、あらゆるツールを排除して、ただ風景だけを、やはり位相芸術的に処理して、風景と人格を一致させた。日本的芸術の極みであると思う。芭蕉は位相芸術的に風景そのものになることができた方だった。そうじゃなければ、あれだけの俳句や超絶的な名文は書けまい。

つまり、ゴーストインザシェルにしても、エヴァンゲリオン・破にしても位相芸術的観点では中途半端だし、ツールを使い過ぎだし、自己との対峙という過去の偉大な日本の芸術家達が既に完成して卒業したテーマを今更追いつめて点で、ジャパニメーションが浮世絵の領域に達するにはあと数百年かかると発言している……。解釈の多様性を御理解願いたい。

守↓破↓理の原理から言えば、位相芸術的な悟りは人格的に完成させた上の山の頂上から、山の下にいる観客に、

「こっちに来なさい」

と導くのが芭蕉的な自己完成への道筋である。自分自身が自己対峙している芸術家が観客にも自己対峙を求めるのは日本的な美意識では、認定しがたい。山は小さくてもいい。とりあえず、頂上から呼びかけるのが、日本的な位相芸術の人格完成のあり方であろう。繰り返すが自分の場合artとかいて「生き方」と翻訳するし、managementと書いて、やっぱり「生き方」と翻訳する。生き方もまた、artやmanagementと同じく多様性の原理が

支配する……。。

脱糞しました

朝、ベッドから起き上がり難く、

「できればこのまま腐って死んでしまいたい」

なんぞと考えていた。

ちょっとストレスのかかることがあり、風邪をひいており、スタツフさんからは、

「ダメ男」

と呼ばれ、ダメ男呼ばわりされたのは嬉しかったのだが、なんやかんやと疲労の溜まる1日でした。

ストレスの元は何か解決に向かったが、便所事務所を出て、家についたら、ぐだぁとなり床暖の絨毯にいつものように横たわる。

そうして、さっき何気なくオナラをしたら、なんとオナラと一緒に実が出てきた。

水っぽい、お粥のような実が……。

俺だけかもしれないですが、抗生物質を飲むと下痢しません？

慌ててその場でズボンと股引とパンツを脱ぐ。下半身裸のまま、トイレに駆け込む。

妻は怒り狂うし、ベックは走り回り、息子は、キャツ、キャツと喜んで
いる。

また、ダップン！

これじゃあ本当にダメ男そのものだ……。。

じき、四十四歳。龍年生まれ。人格破綻者……。

きょう、僕は脱糞しました。

♪脱糞するって本当ですかァ

本当です。この汚い中年男は、だいたい半年に一回くらいのペース
で脱糞しておる者です。

たちつてと

★た

脱糞……

★ち

ちよつとだけでだから、

★つ

妻に罵倒されつつ、

★て

手を洗い流し、

★と

父ちゃん今年で四十四歳。チヨくダメ親父……。

そんな日でした。

コメント

イイネ！
(0)

コメント

ゲイで右翼

午前中、ある助成金の書類を仕上げて、午後は外回り。札幌北職安と、札幌北社会保険事務所にいきました。

北職安での待ち時間、携帯に過去にきた友人からのメールを読んで笑っていました。特に面白いのは友人でもある俺と同年代の社労士からきたメール。

「世界はフリーメーソンに支配されている」だの「闇の勢力」だのにやたらと詳しい男です。最近、彼に誘われてススキノのクラブ（踊る方のクラブです）に連れていかれました。

ススキノのブレイティーという店で、一階が踊るスペースで、二階が談話できるスペースになっていて、ソファアなどが並んでいる。独身の彼がよく通う店らしく、「ここのピザはうまいぞ」と二階で、外国人の作ったピザを食べたら、これが本当に旨い！ ピザを食べながら話す内容も、またいつもの、陰謀論だの日本民族の優秀さに関

することばかりで、クラブの雰囲気と合致いたしません。彼はピザを片手に語り始めました。

「松尾さんは知らないと思うけど、現代の世界は、フリーメーソンやイルミナティといった秘密結社に完全に支配統制されているんだよ」と真面目な顔。「金融から宗教に至るまで、完全に彼等に統制されている。彼等は悪魔教の信者で、薔薇十字などが悪魔教の代表的なものだ！」俺は、また始まったと思いがら、ピザを奢ってもらった手前、のんきに頷いて「そういった情報、どこで手に入れたの」と尋ねると、「Googleだよ。ただね、Googleも最

近は闇の政府からの支配を受けている形跡があり信用できない面はある。書籍でも研究している」あくまで真顔です。

「松尾さん、現在の国際政治や国際金融、特にアメリカにおいて顕著なのだが、：これらは全て、悪魔崇拝をする者たちが完全に牛耳っているんだよ。太平洋戦争にしても、あれは、日本の自尊自衛の戦いだった。だまされて戦争に巻き込まれて、最後は原子爆弾だろ。過去においても未来においても、原子爆弾を使えるのは悪魔だけだよ」

「でも、日本は中国や朝鮮半島で、ひどいことしたし、：」などと俺が口ごもっていると、「朝鮮半島に関しても、中国に関しても、ロシアの脅威から日本を防衛するための進出だった。ロシアはすでにウラジオストクまで南下していた。日本が朝鮮半島を併合して守らなければ、今ごろ朝鮮半島はロシアのものになっているよ。アングロサクソンの植民地支配がどんなに酷いものか、松尾さんも知っているだろ？」

「話には聞くね。アフリカなどでは、現地人を人間扱いしなかったらしい。まともな家も与えず、ほとんど家畜扱いだったらしいな」と俺が調子を合わせると、彼の目は爛々と輝いて

「そうだろう？ 聞いているだろう？ 明治維新後、日本政府は、朝鮮の朝廷に近代化をはかって共に欧米人と戦おうと、お願いしたんだよ。それを朝鮮の朝廷は相手にしなかった。そうしてウラジオストクまでロシアが来て、日本はやむを得ず朝鮮を併合した。朝鮮半島を取られると今度はロシアが日本に進出してくるのは明確だった。

台湾もそうだが、朝鮮にしても、日本に併合されていなかったら、

インフラや教育が整わず、現代の成長はなかったろう。彼等には統一された文字すら、なかった。朝鮮の一地方の文字を、工夫して、朝鮮半島の国語、つまりハングル文字にしたのは実は日本人なんだよ」

だからどうしたと思いつながら、ピザを食べ続けていました。俺が「じゃあ、南京大虐殺は？」と聞くと「そもそも南京大虐殺など中国政府の捏造で、当時の南京においては一般庶民に姿を変えた一部の抵抗勢力との戦闘はあったが、三十万人などという数字は、でっち上げもいいところ。便衣兵と言われる中国の軍隊との戦いで死亡した中国人兵士は少数いたが死亡したのはせいぜい数千人だ。日本の兵士だって死んでいる」

それから、延々と、日本民族の優秀性や、現代日本はアメリカの植民地にされているから独立せねばならないだの、こっちに情報が無いのをいいことに色々としつこく語るの、俺はウンザリしてききました。

だいたい右翼がクラブに通っているのはおかしい！そこで面白い案を思いつきました。去年の暮れ、大学の後輩に連れて行かれたホモバーを思い出したのです。南六条にあるのですが、一つのビルに入っている店が、ほとんど全部、女人禁制のホモバーという場所があります。

考えてみると、ここから近い！早速、「安くて面白い店あるからいこう」と、ホモバーとは言わずに、その店に彼と赴きました。店の中は、ほぼ満員。カウンターを詰めてもらって、座りました。俺と彼以外、全員ホモ。外見はみんなまったくの男性です。友人の社労士は、まわりの客から親切にされたり色々どゲイ特有の気配りをされて上機嫌です。まわりの客や髭面の「ママ」相手に、相手がみ

んなゲイとも知らず、大いに日本と世界について語っておりました。

二時間ほどして、すっかり周囲と打ち解けて名刺交換などしている機嫌のいい彼に「俺、帰るから、ゆっくりしてって」と立ち上がりました。「おう！」と本当に楽しそうに周囲と話している彼に、俺は店を出がけに「どう？　ホモバーっ

て面白いだろ？」といって帰途につきました。その時の彼の驚いた顔！　たまりません（ハ―ハ）ノ～～

あとからメールきて、「あんなに驚いたことは、十年ぶりだ。いつも使っていない脳が活性化された。ゲイの奴等なかなか知的で面白い！　気にいった。またいく」そのメールを今日、札幌北職安で見て、思い出し笑いしていたのです。ゲイで右翼…。今度は新しく生まれ変わった彼と出会えるかもしれませんね（ハ―ハ；）。

実学 ボディランゲージ

こないだディスカバリーチャンネルを聞き流しながら仕事していたら、ボディランゲージについての番組が始まったので見入ってしまった……。

ディスカバリーチャンネルなんぼのもん！ と思っている方々も多いと思うが欧米では権威ある科学チャンネルであり、確か視聴者も数億人いた筈。欧米科学なんぼのもんとは、率直に思うが、やはり、確からしさという点ではキリスト教と双子の兄弟である「欧米科学」といえども、馬鹿にはできない。ただし、21世紀に入り日本文化が欧米文化を完全に凌駕したことは明記しておく。ちなみに自分は右翼ではない。

「欧米科学」そのものが、日本的な直感論の復活の前で過去の遺産になる未来は容易に想像できるが、未だに唯一、再現可能で確からしいのは欧米科学だし、なんといってもディスカバリーチャンネルは、規模も資本力も違う。しかし、近い未来には日本文化の直感論に先導される形でしか欧米科学は生き残り難いことは、夕べ、「エヴァンゲリオン・破」の四回目の鑑賞で、再確認した。自分はご存知の通り、日本のオタクに喧嘩を売ってしまったが、こんなオヤジがいても、まあ、いいじゃないですか。繰り返すがヤクザも幽霊も怖くないが、オカマとオタクは怖い……。

さて、ボディランゲージだが、これが欧米では立派な学問、実学、……科学として確立されている事実を知って、驚いた。自分もボディランゲージの重要性は認識していたが、ボディランゲージを科学にしてしまう発想はなかった。

ボディーランゲージ学の世界の定説では、なんと、

●意志の伝達という点で言語が果たしている役割は5%、残りの95%はボディーランゲージによって人間は意志を伝達しあっている。

……そうである。確かになア！ 自分は英語を解さないワケではないが、大昔、アメリカ人の男性と路上で出会い、自分と同級生だということとで意気投合して、一晩中、二人で飲み明かしたことがある。彼もカタコトの日本語は話せたし、自分も言語的なコミュニケーションができないワケではなかったが、なにせ二人とも、既に泥酔していて、言葉もへったくれもなくなっていた。

俺達は安いバーに行き、

「どっちが酒が強いかな飲み比べしよう」

という話になって、既にお互いボロボロに泥酔しているのに、朝まで飲み続けたことがある。飲み比べの勝敗は、まあ、どうでもいいが、俺達はテンションが上がって、朝まで、アメリカの歌と日本の歌を交互にアカペラで滅茶苦茶に歌いつづけ、ボディーランゲージのみで会話していた。泥酔した彼はひたすら、自分のことをグチャグチャな笑顔で、

「ジャバニーズクレイジーボーイ！」

とだけ連発していた。なぜ、言語なしで、あれだけ二人で朝まで盛り上がったのか、未だに分からないが秘密はボディーランゲージにあったと思う。彼はアメリカで不動産コンサルタントの自営業をやっており、旅でサップロに、……ススキノに来ていた。

そんな体験があったから、意志伝達の95%はボディランゲージだという、定説は、すんなりと理解できた。

番組の中では様々な人物の映像を科学的に解析してボディランゲージから、分析していた。印象的だったのが、クリントン大統領の不倫騒動の時の、クリントンの釈明会見の映像をボディランゲージ学から解析して、見事にクリントンが嘘を言っていることを立証していた。説得力はハンパではなかった。

地元では有名人なのだが、八柳徹郎さんというエッセイストがいる。いまは引退されたが、「ススキノの水商売の裏のドン」とか、小説「氷点」で有名な三浦綾子さんは彼を称して「夜の牧師」と言った。知っている方々も多いと思うが、彼はススキノで、おそらくは当時一番たくさんのホステスをかかえるグループの役員であった。自分は、文学仲間の集まりで定期的に彼に会い、様々なお話を聞かせていただいた。面白かったのが、彼自身によるホステスへのボディランゲージの指導の様子描写だった。

彼は数百人のホステスの前で、ある時、本州から来たお客向けにボディランゲージの指導をしたそうである。実演してみせたそうだが自分は泥酔していたから詳細は覚えていないが、かなり技術的に水準の高い話を披露してくれた。印象にのこっているのは本州からのお客を、千歳空港まで同伴して見送る時のボディランゲージの指導方法だった。

さりげなく、さりげなく、別れを惜しむように、羞恥心を装いながら空港でお客にタッチしながら、いよいよゲートでの別れ際の、最後の瞬間に、片手の指を目の下に当てて「泣く」ボディランゲージをお客の脳裏に印象づけるのがコツだと彼は述べていた。そうすると、リピート率は爆発的に高まるそうである。まったく、八柳先

生ときたら、人情もあつたが、さすがにススキノの裏のドンである。

「男って、本当に、馬鹿だなァ！」

とも感じた。

彼のグループは相当に単価の高い商売をしていたから、千歳空港まで見送りしても、割があうそうであつたが……。

八柳さんの弟子のホステスの多くは今、おそらくはススキノを中心に、日本中の歓楽街に散って大成功していると思う。本物のプロの生の指導なんて、なかなか受けられないものだ……。

最近、高級クラブに行く機会がふえたが、仲間は誰も気づいていないと思うが、自分は店内のデザインを美学的に密かに観察している。セクハラ発言を狂ったように連発する自分が店内の総体的デザインを観察しているなど、誰も気づいていないだろうが今、酒を止めた自分の脳裏は案外鮮明なのだ。

前にも述べたが、日本人の空間認識は位相数学的であり、まずは、空間から人物やモノを規定する。中国人や欧米人は逆で人物やモノから空間を規定する。

だから、日本の高級クラブの勝負の分かれ道は、まずは店内のデザインから、人物としてのホステスを美学的に配置、デザインして、マネジメントする点にあることは確信している。

空間の中で、どのようにホステスをデザインするか、どんな衣装を着せるか、どんなメイクアップ方法が良いか、そこまで考えて、位相数学的な空間認識から水商売の店舗をマネジメントしているデザ

イナーは存在するのだろうか。

水商売のデザインなんぞ、自分には興味は無いワケだが、これを論理的に分かっていなくても、肌で分かっているオーナーやデザイナーは、阿呆なお客を無意識に店に吸い込めるのだ。

加えて、ボディーランゲージである。八柳さんは当然、店内でのボディーランゲージも指導していたと思うが、今の日本の歓楽街に、彼ほどのボディーランゲージの指導者は、おそらくは、もういないかもしれない気もする。

極端な話、理論的には、完璧にボディーランゲージのできるホステスならば、会話の技術は5%で良いのである。水商売の真骨頂とは、ボディーランゲージだと思うが、自分の観察した限りでは、空間的デザインの中の配置としてホステスを設計している高級クラブには出会ったことがないし、ボディーランゲージのできているホステスも皆無であった。なんとなく店内をデザインして、なんとなく、なるべく美しいホステスを揃えて、なんとなく、上等なべべとメイクアップさせて……はつきり言っておくが高級クラブやスナックにしても、この「なんとなく作戦」では一時の直感で、われわれ阿呆を吸引できても、長続きしないと断言しておく。

ちなみに自分は長年の経験から水商売の関与先にはコリゴリしているから水商売に関与する気はないが、今、水商売関係者が読んだら物凄い価値のあることを無料で書いている……。

だいたい、水商売専門のデザイナーのプロは日本に存在するのか？ 店内をいくら上等にデザインしても、空間的デザインの中の風景としてホステスを連動させてデザインしないと無意味。加えて日本にボディーランゲージの本物のプロはいるのだろうか？ そう、八

柳さん級のプロ。八柳さんほどの「ススキノの裏のドン」「夜の牧師」と言われた方でも、彼をリアルに知っている自分には彼に論理学や科学的思考力があつたとは、到底、思えない。長年の経験と芸術が八柳徹郎という夜の天才をうんだが、彼は学者ではなかった。だから、弟子に経験の「再現性」までは指導できなかっただろう。彼は経験論的な直感論的芸術家であつたが……。

水商売に関与する気はないが将来的には、真に志の高いオーナーがいるならば自分は、デザイナーとメイクアップアーティスト、それからボディーランゲージのプロを集めてチームをマネジメントしてもいいが、これはオーナーにとっては高くつくだろう。しかし、絶対に成功する。価値は数千倍になって戻るだろうが、まあ、そんな、本当に志の高い水商売のオーナーはいないだろう……。

学問、……実学としてのボディーランゲージの研究、……ディスカバリーチャンネルを観て、自分にこれが欠落していることに気づいたから、早急に研究しなくてはなるまい。自分は芸術的描写としてのボディーランゲージは非常に重視してきたが、学問（実学）としてのボディーランゲージを研究したことはなかった。

例えば黒澤明監督の中期までの作品と、今のただの日本映画をなんでもいいから見比べてみるとよろしい。黒澤明監督は空間の中の人物としてのデザインが完璧にできているし、登場人物は全身で演技している。つまり、黒澤明監督みたいなコンセプトで高級クラブをデザインしたら、成功は間違いない。俺や俺の変態道の弟子のコー○イーさんのような我々、阿呆な男はイチコロであるが、難解だろうか？

今回書いたことは、水商売に限らず、あらゆるジャンルの商売に応用可能である。

日本人特有の位相数学的な空間認識としてのデザインと、ボディランゲージ……この二点を押さえたら、少なくとも水商売のオーナー、あんた成功するぜ。

誰かそんな店を創ってくれよ。セクハラするしか楽しみのない高級クラブしか、知らないのだ……。

変態道

最近、男女ふたりのスタッフさんから、

「変態ッ！」

と呼ばれることが多くなり、喜ばしい限りである。

変態ッ！

いい響きの言葉である。

最近は変態らしい変態が少なくなってきた。どこか陰湿だったり、犯罪的であったり気持ち悪かったり、つまり、変態道の風上にもおけない変質者が増えてきた。

★変質者

と、

★変態

この二つには大きな違いがある。

変態と変質者の違いが曖昧となり、堂々と、

「俺は変態だ」

と胸を張る男が少なくなった。

この悲しむべき時代状況を憂慮するものである。

そこで、今、長年の風雪に耐えてきたオゲレッツ大魔神たるオレサマが、ついに変態道の行儀のあり方、作法について語るべき時期がきたと、今、封印してきた変態道の剣を抜こうと決意したものである。

エッチな人とか、エッチする、と言った場合のHは勿論、変態の頭文字から来ている。

なんでも和製英語のような言葉にするとノリで許される世相。なんのことはない。

エッチ。

これは変態のことである。

つまり変態は皆がやっていることなのだ。

そこの、取り澄ました娘さん！ 君が大好きなカレシィとやっているのも、変態行為である。子供は変態行為により、生まれる。変態行為は人間の出生にとって不可欠なものではないか。

思うに、変態という言葉が一般的になったのは、三十年以上前に、当時、漫画雑誌の「少年チャンピオン」に衝撃的に登場した「ガキデカ」の主人公、こまわり君が広めた言葉である。

それまでは、変態という言葉こそあったものの現在のよう一般的ではなかった。

今の変態に該当する言葉として、

「色キチガイ」

という表現が一般的だったくらいで、こまわり君の登場を待って、「変態」は今の変態となり、そうして、

★エッチ

という表記も一般化したものと理解している。この辺の解釈について異論のある方がおればコメントをいただきたい。

さつき、

「それでもボクはやっていない」

という映画をテレビで観た。

電車の中で、痴漢していないのに痴漢に間違われて法廷で裁かれていく青年の物語。

ボクと名乗る青年に非常に同情的な描き方だった。

が……。

変態道の目線から見ると、そもそも痴漢に間違われること自体が道にそれている。

右から見ても左から見ても斜めから見ても、とうてい痴漢には見えないオーラを発することが変態道の神髄と見る。

ここで自慢だが、俺は、結婚前まで、女性に対してまるで義務のよう
にセクハラ行為を働いてきた。すすきでナンパした人数をいれ
たら、信じられないかもしれないが、その数、だいたい一万人！

バックで思い切り顔面をブン殴られたことがある。ビンタは無数。
しかし、セクハラ行為に関して、警察のお世話になったことは一度
もない。

なぜか。

見るからに変態であり、変態道における、

★心

★技

★体

が一致していたからかもしれない。

★シティーハンターのサエバ

★うる星やつらのアタル

★ルパン三世のルパン

この三人は、以前にも書いたが、変態道の達人である。セクハラ行
為を働いたら、この三人は女性から、その場で鉄拳制裁を受ける。
けて訴えられない。ちなみに俺はこの三人の変態性の純度は、諸

星あたるが一番だとおもう。なぜなら、ルパンやサエバみたいな技能がアタルにはない。ずるさがない。以前、mixiでその件にふれた時、マイミクさんがコメントくれたが、

「特にシティーハンターのサエバのシリアスの時の変身ぶりはずるい」

と、書いてくれた。確かに……。

ともあれこの三人は凄い。つまり、

★明るい変態！

なのだ。

明るい変態は、女性も、内心、望むところなんだろう、……

と、思いたい。

俺は今でこそセクハラ行為は控えている。女性より、正直、子供やペットと戯れている時間が癒される。誠に情けないことだ。

かの変態大王の俳優の丹波哲郎さんをご存知だろう。

彼は以前にもふれた通り、霊界研究で有名な方だったけれど、変態

道における秀逸ぶりは、全くもって敬服に値する。

老いてなお、息子の嫁の体に、しょっちゅう触れていたらしい。しかもそのことを、葬式の会場で、息子が発表すると会場に、どっと笑いが起こったという。勿論、当の嫁さんも笑顔。

五年くらい前に、実際にテレビで丹波哲郎さんの変態ぶりを目撃してしまった。

テレビ局の廊下などで、誰それかまわず、女性という女性に突然抱きついて、驚いた女性達が、

「ギャァー！」

と悲鳴を上げていた。

ただの抱きつき方ではない。ピンポイントで、オッパイや股ぐらを、本当にえげつなく、狙いを定めて、触る。物凄い映像だった。

痴漢どころの騒ぎじゃない。

ああいうの、何ていうのだろう。強姦？ 違う。

そう、

★変態

である。あれだけの変態行為を日常的に働いていながら、丹波哲郎さんがセクハラ行為で訴えられたという話はきいたことがない。

驚いたのは、抱きつかれて、ギャァー、と叫んだ筈の女性達が、し

ばらくして驚きから覚めたら一様に笑顔になっていた点。

なんということ……と驚いたよ、俺は。同じ変態道を志すものとして足元にも及ばない！

有名な俳優だから許されてる、とか、そんなレベルの変態行為ではなかった。なぜ、訴えられないのか、騒ぎにならないのか、女性達が無表情になるのか、うーん、しょうみ分かりません。

老いてなお、

★華のある男

であったことと、何よりも、

★明るい変態

という二点で許されていたのかな、とも感じたが、そんな明るいだけの暗いだけの「華がある」だのを超越したスケールの大きさを感じた。

いつか、中国からやってきて数年の丹波哲郎さん知らない中国人の女の子に、たまたま持っていた丹波哲郎さんの本に掲載されている氏の顔写真を見せた。

「松尾さんに凄く似ているヨ。親戚のオジサンの本あるか」と言われた。その時おれはどれだけ名誉に思ったか……。

丹波哲郎さんという方、ただものではなかった。一生かかっても、氏の達した変態道の境地には、どうあがいても到達できそうにない。

痴漢で訴えられるのは男の責任。

ほんとうはやっていない冤罪の痴漢でも、男が悪い！

痴漢に見えてしまった時点で、男としての行儀の習いをしてこなかったのでは？　と思う。

★男の癖に取り澄ましてはいないか

★真面目ぶってはいないか

★聖人君子でもないのに、爽やかな風情を心がけてはいないか

★率直さが足りなくはないか

★女性の前だからといって、態度を変えたり良いとこみせようという心理はないか

★俺は変態だと、言葉だけじゃなく不言実行できるか

★仕事ができる、だの資格だの、学歴だの預金通帳残高だの容姿だの……何かに頼っていないか？

★逆にその何かが無いことにコンプレックスをいだいてはいないか？

上記に心あたりのある方は、電車の中で痴漢に間違われる可能性が高いと思われる。

自分を含め、男らしい男が減るのに比例して、痴漢だとかセクハラだとか、そういった行為を働く変質者が増えてきた。
繰り返すが、

★変態

と

★変質者

この二つは似て否なるものだ。

変態道の奥は深い。

俺も明日から精進します。

励もう！ 同士諸君！

男子、一夜にして豹変す

今日は内勤日と決めて、繁忙期の書類を整理する仕事の続きから始めました。

ところが、自分にとっては膨大な書類の山を前にして、「そうそう、琴似の○○さんに用事があったんだ！」と書類の山から逃げるようにして、いつもの、おんぼろカロウで出発。今週はどうやら、書類の整理で土日も仕事だな、などと腹を決めて、雪道を運転しているうちに琴似の不動産屋さんに到着。主に賃貸の仲介やアパートの経営や管理を手広くやっている社長と談笑。俺がコーヒーを飲みながら、「最近ストレスのせいかニコチンとカフェインの摂取量が増えて困っている。妻からはいつも白い目で見られて家庭内の地位が低くて参っている」などとブツブツ愚痴を呟いていると、社長は何の脈絡もないままに、こんなことを言い始めました。

「松尾さん。うちも女房から冷蔵庫の開け閉めに始まり、箸の上げ下ろしまでうるさく注意されて軽蔑されているよ。どこも同じだべさ。全く女ってヤツは…」とひとくんだり愚痴をこぼした後、こんなことを話し始めました。

「女ってのはすぐに男を決めつけて評価しちまうからね。まるで中古車を査定するみたたく決めつける。厄介な生き物さ。ところが、男子一夜にして豹変す、という言葉があって、男ってヤツは、たった一晩で、別人のように変わることがあるんだわ。だから俺はどんな馬鹿なヤツでも、悪いヤツでも、男である限り、見捨てない。決めつけないんだよ。現に俺も昔、人の保証人になって物理的に到底払いきれない借金を負ったことがある。悩んで悩んで、悩み抜いた時、まさに一夜にして人間が変わったんだア…。それからあつという間

に借金は全部返した。男子一夜にして豹変す…ええと、誰の言葉だったかなあ？ 忘れたけど、いい言葉だべ？ 松尾さん」

なるほどなあ、と頷きながら、俺は昔の自分のことを回想していました。自宅兼事務所に帰る途中、カローラを運転しながら、とんでもなかった自分の過去を反省していました。俺は大学卒業後、いくつかの士業の事務所に勤めた後、28歳で社会保険労務士事務所を開業しました。それから何故か堰を切ったようにススキノに出没し始め、遊蕩三昧の末、32歳で廃業しました。そうして破産寸前になりました。同棲していた女性にも愛想を尽かされて彼女のアパートから実家に帰り、車も車検がきたので廃車にせざる終えなかったし、仕事もない、車もない、彼女もない…あるのは借金だけという状態になりました。借金を返す為に正社員・アルバイト問わずいくつもの仕事を掛け持ちして、その五年後、37歳で結婚とともに再開業して現在に至ります。

フリターののような、仕事を掛け持ちしていた六年間、本当に自分には何も無くなりました。俺も随分悩みました。生き方を求めて、色々な人生論や成功哲学関係の本を読みあさりました。その時、本というものは身で読むものだと思いました。

ただ道をもとめて読むより、困って困って泣きながら読むのでは、入り方が10倍も100倍も違う。本当に困って読むと、難しい古文なども苦にならなくなる。それまでこんな仕事をするようになったらいよいよだなと思っていた世界で働きながら実に多くの本を読みました。真面目な労働の大切さも学びました。仕事にいいよなんてないんです。色々学びました。

面白いことに、人間なにもなくなると、意外にも、人を励ますようになることも体験から学びました。

ラーメン一杯、他人に奢れない経済力だけど、他人を励ますのはいくら励まして金はかからないと気づいたのです。働きながら出会った多くの人に励ましの手紙をだしました。そうして、昔から一番好きだった片想いの女性にも、「自分はもう駄目だから、早く良い相手見つけて結婚してくれ」と、想われてもいないのに、ほざいていました。嫌われていた癖に！

「君にはこんなに良いところがあるから自信を持て」みたいなことを手紙や電話で言いづづけました。他の多くの人にも激励のメッセージを口や電話や手紙で送りつづけました。

いわば、自分より他人の幸せを考えた瞬間が俺にもあったのです。そうするより他、自分の存在価値を確認する術がなかった…。

身を捨ててこそ浮かぶ背もありと申します。人間本当に身を捨てて利他のことを考えるとき、色々と奇跡的に事象は動くことを知りました。本当に身の周りが180度、大回転いたしました。

…今は再び、社会保険労務士の仕事をやっておりますが、これはいわば方便でして、本当の目的は、お客さんに自分の体験した奇跡を伝えたい。心が変われば劇的に環境も変わるという真実を伝えたい！ その為に働いている

のだア…と信じてたい！ …と、そんなことを家に帰る途中のカラオケの中で今日は考えておりました。昔、一番愛した人が待つ自宅へと車を走らせました。

やめてくださいッ

きょう、地下鉄に乗っていたら、満員であることをよいことに、妙齢の美しい女性が、オレサマの尻を触っているような気がした。うん、あきらかに触っている！

「やめてください！」

俺は映画「それでも僕はやっていない」の中の女子高生の叫び声を思いだし、その通りに叫ぶ。ネエチャンの手首を握りしめ、捕まえた。

「やめてくださいッ！ ……ネエチャン、今、俺のケツなでたべ！」

「触っていません」

俺は満員の地下鉄の中の、近くに立っていた若いサラリーマンふうの青年に、

「あんた、みていたべ？ このネエチャン、今、俺の尻さわったべ？ 見てたべ？ な？ 見たべ？ みたんだよお前はァー！」

俺に胸ぐらを鷲掴みにされたサラリーマンが、

「は、はい、そう言えば、て、手がお尻に向かっていたような」

「だべ？ よっしゃ、証人もできたァ。ネエチャン、この責任、どうとってくれるのよ」

地下鉄がとまり、俺は証人のサラリーマンのネクタイを引っ張り、ネエチャンとの三人で、外に出た。

「駅長よべやこらァ。痴漢ができましたよォ」そうしてネエチャンの耳元で「ネエチャン、裁判で争うかい？ 痴漢の有罪率は、ほぼ百パーセントらしいがなァ。俺も証人がいたから、あんたの犯罪を確信できた訳で、この兄ちゃんがいなかったら泣き寝入りしていたとこだったべや。あんがとよ、兄ちゃん」

「い、いえ、そんな、別に……」

青年は目を白黒させている。

「青年、あんたが証言したから、民間人権限でこのネエチャン、逮捕したんだかんよ。証言くつがえしたら、あんたも、ただじゃすまんぞクラァ！」

「あ、はい、了解です」

「いったい何が望みなんですか。こんな、むちゃくちゃな話……」

ネエチャンが嘘泣きしながらうずくまる。

「望みかい？」

これを受け取ってくれたら、許してもいいかなァ。ひひ」

俺はポケットから一冊の聖書を取り出す。聖書をネエチャンに手渡ししながら、俺サマはこう言った。

「実は、キリストの教えを伝えるものです。これを読んで、あなたの魂を救ってください」

俺は、彼女から手をはなし、兄ちゃんに礼をして、新しく到着した地下鉄の風を肩で切りながら、二人から離れ、颯爽と、一人歩く。

その後、青年とネエチャンが結婚したと風の噂で聞いた。

お幸せに……。

以上、きょう地下鉄の中、すさんだ頭で考えていた妄想でした。

精神を病んでいる方の生き方

m i x iのメッセージで、定期的に、鬱病など、精神を病んでいる方々からの相談が来る……。

一人ひとりに親切に回答しているつもりだが（もちろん無料）彼等の苦しみは他人事ではない。そこで、精神を病んでいる方々の生き方について、自分の所見を述べてみたいがア……。

お察しの通り、俺もまた、精神を病んだキチガイである。鬱病にアル中、パニック、自己愛性人格障害であり、アダルトチルドレンであり、ボーダーライン、サイコパス、統合失調症、A D H D、A D、最近ではE Dにもなりかけている。立ちが悪い……。要するに自分は精神病のデパートのような人間だが、あまりに被っているから、逆に中和されて、解毒作用が働いていると思う。フツウのエロ親父になってしまった。しかし、精神病は精神病である。混ざり過ぎて、中和されて平常を保っているだけだろう……。

さて、精神病の方々の生き方を語る前に、ほとんどの精神病（人格障害は除く）は食事やサプリメントによって治る（！）という真実を知っておいていただきたい。

●食事で治す心の病 大沢博著

……と、いう本を昔よんだが、要するに、彼は権威ある文系の心理学者であり、文系心理学者の立場から、現代の理系、精神医学の欺瞞、嘘を暴露した本であった。

例えば、同著の中にこんな逸話が書かれていた。大昔、とある精神

病院に勤務する管理栄養士の男性が、精神病と食事との因果関係に気づいて、院長の許可を得て、こんな実験を行った事実がある。

入院患者を二つのグループに分けて、片方のグループには通常の食事、もう片方のグループには、「玄米正食」と言われる、玄米と野菜中心の食事を与えた。

結果はなんと、玄米正食を与えられたグループの患者の精神病が、全員、完治してしまった……。院長は、商売あがったりになることを恐れて、玄米正食の患者への投与を禁じた……。おさまりのつかないこの管理栄養士は、医学界に、研究発表寸前までいくが、これにもストップがかかる。立ち消えになったのだ……。

同著の中では、こんな逸話も、あった。ビタミンB3（ナイアシンアミド）の大量摂取によって、統合失調症が治ることを発見した学者が、……たしかノーベル賞学者のホーリング博士を中心として、「分子整合精神医学」というジャンルを確立するも、やはり、トランキライザーの発明と同時期であったこと、それから、医学界と製薬会社の複合体である、いわゆる「医療マフィア」によって、叩き潰されてしまう。

息子が統合失調症となり、再起不能宣言を受けた、一介の町医者が、この情報を聞きつけて、酷い病状の息子に、精神病院には秘密で、毎日の息子への差し入れのサンドイッチの中に、ナイアシンアミドを混ぜて、食べさせたところ、再起不能宣言された筈の息子の統合失調症が、あっという間に完治。その後、息子は医師になったそうである。

昔、自分がこの本を読んだ頃、鬱がひどかったから、

（ナイアシンアミドの大量摂取、もしかすると鬱にも効くかな？）

と思って、日本ではナイアシンアミドの単品での市販は行われていないので、輸入代理店から購入。飲んでみた。結果は鬱には効かなかったが、なんと、子供の頃から悩んでいた全身の酷いアトピー性皮膚炎が完治してしまった。そこでナイアシンアミド（ビタミンB3）のことを調べたら、抗アレルギー作用と美肌効果の強いサプリメントだということが分かった。自分は実験した。ナイアシンアミドを止めてみると、アトピー性皮膚炎が再発した。そうして、またナイアシンアミドを大量摂取すると、再びアトピー性皮膚炎完治：そんなことを幾度か繰り返した自分は、サプリメントによりアトピー性皮膚炎が治ることを確信して、かかりつけの皮膚科医に、経緯を説明。研究して医学界で発表するように、依頼したら、ケンモホロロに断られた。実際にアトピー性皮膚炎のサプリメント治療を行っている病院が東京にあるから、本当にアトピー性皮膚炎で悩んでいる方々は相談してみるとよろしい。ただし、高くつくとは思う。

要するに、稀な例外を覗き、医師（特に精神科医）は、医療マフィアによる大学教育と医療機関の洗脳を受けて、末端に配置されている手下に過ぎないのである。

これも自分の体験だが、一昔前に、自分は、ディスカバリーチャンネルで、「サプリメントで治す躁鬱病」という番組を観た。たまたまの偶然から、カルシウムなどを混合した餌を豚に与えた養豚場経営者が、気の荒い豚が、その餌によって大人しくなる現象を発見。この経営者には子供が何人もいて、たしか、全員、鬱病であり、自殺した子供もいた。精神科医がアテにならないと踏んだ養豚場経営者は、豚に与えたのと同じ食品を子供達に与えたら、なんと全員完治！ この養豚場経営者は後に「Empowerplus」という

商品名で、躁鬱病の特効薬を発売。

サプリメント

ディスカバリーチャンネルの中で、実際に、ある重い鬱病の女性に、このサプリメントを飲ませて、彼女にカメラを持たせて、変化の様子を、実況させている映像を自分は観た。結果は約2ヶ月くらいで彼女の重い鬱病は完治。

この番組の記憶があった自分は、やっぱり過去に鬱が酷い時に、高額な代金を支払い、実際に海外からネットでこの「E M p o w e r p l u s」を下手な英語を駆使して直輸入して服用してみた。結果は、やはり、服用してから、2ヶ月くらいで、有り得ないような変化が起きた。鬱が消えたどころか、景色までが美しく見えてきた。一本の薔薇の花の美しさまで、つくづくと感じ取れる精神状態になったが、この商品が、あまりに高額だったから、服用を中断。再び、鬱がぶり返した。これは自分の実体験である。

以上。精神病は食事やサプリメントで治るし、やはり東京に、心ある精神科医による精神病のサプリメント治療をやっている精神病院があると噂に聞いた。ただし、大変に高額らしい……。

これらの事実を踏まえた上で、精神を病んでいる方々の生き方についてお話ししたい。やはり、一番おおいのは鬱病の方々だと思う。以下に、重要な事項を箇条書きにしてみよう。

●精神科医に頼ってはいけない。精神科医や精神病薬は一時のツールと考えていただきたい。上記「食事で治す心の病」では、軽い気分障害から、精神科を受診して、紆余曲折の末に1日に25錠もの精神病薬を飲まされて本物の精神病になってしまった若い看護婦さんの話が引用されていた。1日に25錠もの精神病薬を飲んだら健常者でも、そりゃ、頭くるう。常識で考えたら分かる筈。

●無理をしないことだ。自分は病気だから仕方ないと開きなおり、罪悪感を抱かないこと。

●精神病でもできる適性ある職業を見つけること。自分の印象では鬱病の方々は思考力が鋭いし、統合失調症の方々は、直感力やカンが鋭いし、……精神病の方々は全般的に芸術的センスが強い。毒を変じて薬となす、である。

●既成概念は捨てていただきたい。極端な話、鬱で起き上がれない方ならば、ベッドで寝ながら仕事してもいいのだ。精神病を自分の個性と捉えて、世間との折り合いの付け方は、先入観のない思考で、自分の適性を踏まえて、工夫していただきたい。

●精神的に高いエネルギー水準に達したら、精神病は、治るものがある。精神科医や薬、食事やサプリメントに頼らなくても、精神的な高エネルギー（プラス発想をすれ、だの、前向きになれ、だのという意味ではない。そんな馬鹿な意味ではない）を達成できたのなら、自分のみならず、他人の精神病すら治すことが可能なのは、各種自助グループ（自分の場合は特に断酒会見学だった）の優れたリーダーを観察することで、確信している。他人の精神病まで治してしまう……そういう人物は稀に実在する。はばかりながら、例えば、この俺だアッ！

●生活保護や障害年金は、最終的手段と考えていただきたい。別に受けても全然かまわないのだが、まずは、治すこと、社会で生きることを考えて希望を持っていたきたい。実際に、ほとんどの精神病は、治る！のである。

●鬱病の場合は、自分の体験だが、鬱の本質とは、地下に眠ってい

る真っ黒な原油みたいな側面があると思う。原油は、地上に出したら、激しく燃える。実際に、元・鬱病患者でキチガイじみたパワーを発揮した方々が多い。見習っていただきたい。

●頑張らないでいただきたい。頑張らなくても、社会との折り合いをつけることは可能だし、生きていけるものである。要は、くどいようだが、工夫だ。

……まだまだ列挙したい事項は無限にあるのだが、携帯から書いているので、そろそろ、文字制限の時間である。

死にたい、とか、切りたい、とか考えたら、御連絡いただきたい。確か楽天ブログには自分の携帯電話番号書いてある筈。非通知でいから電話いただきたい。m i x iの方々は、メッセージでどうぞ。当たり前だが、相談は、無料である。

最後に……。

実際の医療現場の臨床に携わっている精神科医等々の方々がこれを読んでいるのなら、少しは反省していただきたい！ まずは患者の「否認」を指摘する前に、自分自身に否認がないか、洗脳をうけてはいないか（受けているんですよ！）内省していただきたい。

テモミン

札幌、ススキノ、ロビンソン百貨店のテモミンというマッサージ屋さんにたまに行っていた。

おれは肩こりが酷い。特に首の付け根、いやいや、全身こっている。

神経質で過敏な性格が原因だと思う。

テモミン、いつもは大抵、若い男にやってもらっているが、こないだ、若い女性にあたった。

こるがまた、俺ごのみの可愛い子。

50分の全身コース。

薄いパジャマみたいな服を渡されて、個室に入りスーツを脱ぎ捨て、全裸になって着替える。

「いいですか」

とノックして女の子が入ってくる。

痩せているのに、細い指で、実にプロのマッサージを技を見せてくれた。

気持ちいい〜

ところがア！

うら若き女性に手のひらや指で体を触られてるうちに、下半身が反応…。いわゆるハーフ・スタンド…半だちですね。

ヤバイ。

服が薄いから、バレル！

そこで目を瞑り清浄とした滝の映像などを思い浮かべる。

川の流れ、山の麓の平和の里に暮らす老いた父と母…。

「上向きになってください」

俺は体を裏返し天井を見る。

女の子の手が足にふれる。ふくらはぎ、もも、実に真剣にマッサージしてくれる。

ヤバイヤバイヤバイヤバイ…。

半眼の弥勒菩薩の仏像を思い浮かべる。

工夫して、道端の犬の糞などに思いを馳せる。

これまでの人生の不幸な出来事の走馬灯を、無理やり心の手でグルグルと回す。

暗記しているお経を心で読む。

う、そこはまずいでしょ、そんなに無造作に、いとも簡単に…。

大空に鷺が泰然たる円運動を描いている。

星星の煌めきに感慨を巡らせる。

無限の宇宙…。

ガンジーの生涯を回想する。

女の子は丁寧に腕を揉んでくれる。なんと、腕を揉まれると足より自慢の息子が、目をさましそうになる。

起きないでくれ、我が子よ。

心の中で子守歌を歌う。

♪ぞうさん、ぞうさん おはなは…ヤバいでしょ！

童謡を中断する

月日は百代の過客にして、行き交う年もまた旅人なり 船の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて、馬の口…、馬？ そりゃ、馬並みだけど、形状もいいのだけど、旬馬よ、いまは走る所にあらざりや。我もいずれの年よりか、日々たびにして旅を住処とす こぞの秋、…

「時間でーす」

と笑顔の女の子。

俺はかった。

自分にかった。

そうして逃げるようにしてロビンソンを出て駐車場に向かった。

マッサージは野郎に限る。整骨院なら保険もきくし、触って欲しくない感じのムサイ男が多い。

良い勉強になりました。

聖と性

おれってやつは、生まれつきなのか、生育環境からくるものなのか、ほんとうに物欲がない。

古聖は「煩惱即菩提」という言葉を残している。

あれが欲しい、これが欲しい、偉くなりたい、美味しいものが食べたい、評価されたい：煩惱とは、哲学の本質らしきものから推測するに、人間が覚醒する上で、最も必要とされるアイテムであろう。

欲があるから、人間は人間に出会う。街が生まれる。欲があるから人間は失敗もする。失敗するから、また地べたに手をつけて立ち上がれる。立ち上がるたびにひとは道心を得て、思いやりの心も生まれる。

その、欲がない…。

幼いころから一貫して貧乏な癖に、お金も心から求めている。これは重大な人間的欠陥である。

お金を求めるから、人間、地平が広がるし視野も拡く。ただ、お金を「神」にしてはいけない。

原始仏教では、人間の持つ欲を六つに分けて、「六根^{ろっこん}」という。六根の欲がないことを、六根清浄と呼び、理想とされる。

対して大乘仏教では、ご存知のように、「欲」は悟りに役立つ積極的要素である。

俺は大乗肯定派である。古代のように、現代は人間のタチが純粹ではないので、欲望を制御した程度では覚醒できない、と信じる。当たり前ではないか。

世界は変化変化の連続である。時代が変わり、悪世に対応できる新しい仏教が大乗仏教であった。

先日日記「正しき白き蓮の花」で、俺の思想遍歴は、述べた。

様々な欲望（六根）のうち、俺には性欲しかない。エロしかない。女性が心から好きで、変態で、サドで：俺の場合、六根不浄ならぬ「一根不浄」であり、つまりエロエロな性格こそが、この世との、「浮き世」との、唯一の接点なのだ。

街をあるく。

幼いころから不思議な非現実感にさいなまれてきた。

精妙でリアルであるゆえに、物質的世界が、その精巧さ故に、とても現実のものとは思えない自分がいる。

数年前、琴似の商店街を、夜、あるいていた。行き交う人々が、夜の深い海の底の深海魚みたいに見えた。あの、へんてこりんな形をして、光を発している深海魚。

「深海魚だったのか」

と奇妙に納得して、暗い胸の内の非現実感をいさめて、明日からまた生きようと思った。

生きようとする時、社会との接点も動機も、自分の場合、オゲレツしかない。

いろいろな女性とセックスして、当たり前前のセックスに飽きている自分もいて、変態的妄想もほどほどに：とは思っている。

・ゲイとは寝ない。

・スカトロだけはしない。

まあ、この二点の戒めは未だに破っていない。

「聖」という字はよく見ると、耳と口の王と書く。

よく、我々日本人は、まるで誇らしいみたいにな、

「無宗教です」

という。その感覚は、作家の山本七平さんによって論破されていた。無宗教ではなく日本教の信者ではないか、と。

日本教。

ユング的にいえば集合意識に刻みこまれた不文律の教えがあり、その空洞のような教えの周囲に信者だけがいる。それが日本教。

我々は、どこにも存在しようのない、

「普通」

なる概念に、やたらとこだわる。いったい何を基準にしての「普通」なのか。何を基準にしての偏差値か。

集団的平均？

ところが、そんなものは、どこを探しても存在はしないのだ。

悲しいかな、この我が身の本質の大きな構成要素は、いわば、ヤクザよりタチの悪い「文学外道」である。

作家の丸谷才一さんの作品に、「たった一人の反乱」という小説があった。

別に無頼派に傾倒していたわけではない。アウトサイダーとして生きざるを得なかった思春期から青春時代、文学だけが寄りどころであり、救いであり、家であり、安息の空間だった。十六歳から三十過ぎまで、毎日が「たった一人の反乱」だった。

半狂乱であった。いや、完全に発狂していた。

遠い昔、滅亡したはずの文学外道を一人、生きていた。

パンクとか、ロックンローラーとか、ちゃんちゃらおかしかった。海外の「偉い」アーティストも含めて、だ。サイケデリック？ 甘えんなコノヤロウ！ てな感じ。

当時、ある有名なアメリカの黒人のジャズメンが、自分の芸術・生き方に誠実であろうとして、名声も何もかも捨てて、いつかいの掃除夫になった：そんな話を聞いて、ジャズだけは、傲慢な文学外道も、認めた。

傲慢だった。劣等感というか、違和感のカタマリだった。

実は、エロエロ以外、もう一つ根本的に興味のあるのが、性ならぬ、「聖」だった。

正しい生き方とは何か？

真実とは何か？

前にも書いたが、

「それがわかればこの場で殺されてもいい」

と、学生時代の日記に書いてある。

激情や不安、憂愁や疎外感……様々な思いを胸のうちに秘めて、炸裂しそうな精神をかううじて、いさめながら、よく、八十年代の札幌の街を一人、徘徊した。今でも目を瞑ると、イマジネーションの中で八十年代の歓楽街が眼前に広がり、そこを、背中を丸めて、歩くことができる。

ストリップ劇場は唯一の現実的、憩いの場だった。

札幌コマ劇場の宣伝カーの、なぜか物悲しい音楽を聴くと、ストリップ劇場に必然的に足が向いた。いったい、何百回かよっただろう。

欲望こそ、人間的覚醒への糸口……。

もし俺にエロエロがなかったら、今ごろ、平岸の代々の墓の中で骨になっていただろう。

エロエロな心ゆえ、様々な馬鹿真似をして、人並みの苦勞もさせてもらえた。もちろん、子供もできた。徹頭徹尾、オゲレツしか、俺には、ないのだ。

ナルシズムは、疎外感から身を守る単なる鎧だったろうし、法律だの、厭世的文学にすら、当然、興味は皆無。

エロエロゆえに、失敗もして、人間について考えて、性は聖へと、変わりつつある。

四十を超えた。

興味の対象が徐々に性から聖へと移行しつつある。

埃にまみれた人間としての自己の「聖なるものの発見」：そこに、後半生の全部を費やそうと真剣に考えている。

誤解されては困るが、「聖」の神髄がわかれば、巨万の富も、巨万じゃない富も、健康も、名誉も成功も、自由自在について来る：そのシステム・心術・心理的プログラムは、知識としてだけならば、わかっているつもりであり、現世を放棄する気は毛すじ程もない。むしろ、より貪欲に、より悪辣であっても良い、と信じている。

だからこそ、俺は、法華経を読む。

以前、友人からこんなことを言われた。

「お前は左のポケットには聖典を入れて、右のポケットには電動コ

ケシを入れてるみたいな男だなア……」

的確だ。

この日記を読んでいる男女の中には、

「性は自分も大好きだし、馴染み深いんだけど、『聖』ってなに？」

と疑問の方々も多いだろう。

俺だって未だに底辺の修行の身、……心だけは出家したつもりではないが、知識としては、脈絡はわかるが、とうてい説明できるものではない。逆にいえば説明できない……名前もつけられないのが「聖」の定義だとも言える。

ちなみに俺の場合の「出家」は、山林に庵を結ぶ出家ではない。欲望渦巻く現実的世界への、聖典と電動コケシを手にしたの「出家」であり、いわば殴り込みにちかい感覚……。焼き討ちというか。

むかし、借金や薬物中毒で、どうにもならない時、ある人が、薄暗い曇りガラスの部屋の扉を外から開いてくれた。精神的意味で……。感謝に堪えない。

自他共に人間の精神を拡げていくことを、ライフワークにする。それは、このインケツな「業」を「誓願」に変えるという……胸の痛みをともなった、遠い遠い昔からの誓いである。そう、地球や太陽と呼ばれる恒星が形成される前の遙か過去からの「やくそく」だと思っている。

あなたは何をやっている方か。穴掘りか。プログラマーか。教師か。

ニートか。風俗店勤務か。大卒か。中卒か。身長は？ 外見は？ 自信はないか。自意識過剰か。頭いいとおもっているタイプか。打ちひしがれているだろうか。…それらは本当は、あなた自身であつて、本意としては、我々はそんな粗雑な存在ではない、…過去からの永遠の存在、それが我々だ。それらのことはこの俺自体が、雰囲気としてはわかってても、全然わかっていない。

本来、一人の人間には恒星の軌道を変える程度の力、スターウォーズでいう「フォース」は、これはどうも、間違いなく、潜在的にはあるようだ。情報としてでも、それを確信してしまった人間に、どうして、不誠実な生き方ができよう。

俺は…。

いましばらくは、地を這っていきよう。

ねえちゃんの尻も追っかけよう。

戸籍上の配偶者とは日々、相変わらず、戦おう！

いい年こいてオナニーも毎日しよう。

お金は、たくさん稼ごう。

キャバクラにもたまにはいこう！

「聖」には俺には「性」が必要だし、道徳的で真面目だから聖にちかいとも思わないし、不道徳だから良いわけでもない。

あらゆることを肯定しよう。

どんなことも、絶対肯定でいこう！

聖と性。少なくとも俺にとっては、不可分のもの。

ああ、また、コメントのきそうにないエキセントリックな日記を書いた。

誠実とは？ 人間の聖をひらく全て。

不誠実とは？ 人間の聖に蓋をしたり萎縮させる全ての働き。

地を這ってでも不誠実とは戦おう。

ひとりぼっちのヒロイズムでも、いいもんね。

奇人変人だとしても悪魔とでもなんと呼ばれようと、俺、どうなってもいいもんね。

人間は何度も何度も何度も何度も、なんどもなんども…転生するものです。

あいうえお便り

今年にはいつてから、一応、毎日、日記を書く習慣を心がけている。

きょうは何があった？

様々な風景が細切れのように、眠りにつこうとしている頭の片隅で点滅しながら、入れ替わり走る。

書くほどのこともなし……。

日記に書くことに煮詰まった時、世の若者は、バトンを利用しているようだ。しかしオイラは昭和のオヤジ。中年面ぶら下げてバトンもなからう。

今、うちの事務所の経営方針の根幹でもある、ルパンファミリーのCDを聴きながら書いている。

ルパンのCD聴きながら、そう、オヤジらしく、連想的に、

「あいうえお」

で日記を書いてみよう。

★あ

愛……昨日の続きになるが、俺は、だいたい一ダースほどの女性と真面目に交際して、最後の12本目の女性と、今、毎日喧嘩しながら暮らしている。

昔、二十代のころ、彼女は俺からみて、小さく、色白で、まるで妖精のような可愛いらしさだった。いわば秋田系である。ご先祖様はやっぱり東北らしい。彼女の弟は、髪の色と目の色が茶色い。秋田のあたりの人々には、なぜかコーカソイドの血が入っていると聞く。

俺自身が、どっちかというところハーフかクォーターみたいな顔と体つきをしている。

「お前、アイヌだろ」

と、子供のころよくバカにされた。成人になってからも、俺は時折見せる表情がバイのようで女性的らしく、

「ホモアイヌ」

なんぞと呼ばれバカにされていた。オーストラリア人の純粹のコーカソイドの英語教師の女の子には、

「あんた絶対、私たちの仲間と同じ遺伝子入っているよ。凄い混血だよ。あんたの顔みていたら人類学的興味つきないよ」

うーん、妻といい義弟といい、俺も含めて、東北の血の濃い日本人は、なんか不思議な混血児だと思う。

残念ながら俺にはアイヌ民族の血は流れていない。

しかし、アイヌの血が濃いと思われる北海道の地元の方々や、モンゴロイドとコーカソイドのハーフやクオーターの方々に、ひとかたならぬ近親感を抱いている自分がいる。

先祖代々の純粹の日本人なのに、……と思って、いろいろと調べてみたが、なんのことはない、日本人とは大変な混血民族であった。

コーカソイドの英語教師やフランス語教師の男女とは遊び人時代、意気投合して時折、遊んでいた。大きな喧嘩もした。

コーカソイドの女性は、遠くからみたら見栄えがするが、直接話したり、近くでよく見ると、申し訳ないが、セックスアピールがあまりない。

個人的にはモンゴロイドとコーカソイドとのハーフやクオーターの女性が一番美しいと思う。まあ、趣味の問題。

妻は、小中学校の頃の写真をみると、「アンネの日記」のアンネフランクみたいな顔をしている。

妻の出身の道南の海岸線で仕事しているお婆さんたちは、よく見るとなんのことはない、みんなマザーテレサである。

日本人とは誰かという話題に触れるつもりはない。しかし、数十年前のアイヌの民族衣装を着た美しいアイヌ女性の写真をみて、

「この子にアイヌの民族衣装ではなく、和服を着せたら……。古武士の家の娘はこんな感じだったのではないか」

と思ったことがあった。

若い頃の妻を、俺は心底好きだった。それは、いわば日本人なのに日本人らしく見えないらしい俺の自己愛の延長でもあっただろう。

自分はまた、氣質的にもアウトサイダーであるため、はみ出し者、変人、明るい変態、異質な者をこよなく愛する。

そう言えば昨日書いた「昔の女」も、髪と目の色は生まれつき茶色、肌はミルクのように白い女の子であり、内面的にはアウトサイダーであった。

だから、愛したのだろうか。

結局、自己愛の延長だったのだろう。

いつか、あまりにも美しいアイヌと日本人の混血の女性をみていて、なぜか胸の内で涙が止まらなくなったのはなぜだろう。

異質なものを排除しよう、差別しようという日本人の習わしは、これは本当に良くない！ 排除され続けて、今、北海道の片田舎の最果ての山の中の便所事務所で、社労士・行政書士やっているのは、ほんとうは本意ではなかったかもしれない。ほんとうは普通の公務員や大企業のサラリーマンになりたかった。それがかなわず、肉体労働も含め、本当にいろいろなことやったよなア！

意固地になってしまい、変人しか愛せなくなった、この偏狭な俺の「愛」。

★い

やはり真っ先に思い浮かぶのは、色……。

色にはいろいろな意味がある。

仏教用語で、色^{しきしん}心という場合の色は肉体のことだし、男女関係で色
と言えば、恋仲の相手方の呼称である。

・い

♪いつか巡り逢える

優しい何かもとめ

君は心の糸、ふるわせて

微笑みを浮かべる……

色は匂えどちりぬるを……色とは勿論、心に映る色、あらゆる現象
的世界のことでもあろう。

この色ってやつに、12歳でオナニーを覚えてから、ほんつとうに、
ほんつとうに、悩まされ続け、今ではすっかり、見た目通りの変態
オヤジである。

色とは色々な意味をもった言葉だし、奥深く、また、つくづくと業
なものだと感じる。

★う

うまいものが喰いたい。不思議と、うまいものを食べて、心から、

「うまい！」

と感じなくなって久しい。なんだかんだいって、食は命そのものだ。人は食べる為に生きている。また、生きるために食べている。

美味しいものを美味しいと感じないのは、美しい景色を見て、美しいと感じないのと同じくらいの、人間にとっての、いわば「罰の姿」かもしれない。

それでいて俺の場合、性欲だけは強く、女性だけは大好き。変態オヤジ。

でも……。

最近は女性すら、若い頃に比べて綺麗に見えない。ロマンも本能もなく、そのまんまに見えてしまう傾向になりつつある。

そのまんまに見てしまうと、実は男の方が造形的には美しいと思う。そう思ってしまったらおしまいだ。かといって今更、ゲイの世界に足を踏み入れるつもりはない。

おそらく、おれは男と寝たことは一度もないが潜在的なホモセクシヤルかもしれない。

そう気づいたからといって、やっぱり、美男美女を二人並べられて、

「どっちか一人、持って帰ってもいいよ」

と言われたら、勿論、美女をお持ち帰りする。

抑圧があるのだろう。昔の人々は別にホモセクシャルでなくても、男どうしが関係を結ぶことは自然だったらしい。それが「友情」の証でもあったのだ。

人間はほうとうはみんな、同性愛者でもあると思う。ただ、抑圧しているのではないか、自分の願望を！

美しい男女を美しいと感じる心が萎えてきて、今、残っているのは、

「子供が可愛い」

という感情。

子供と犬を連れて、この山の中の川べりの道を歩いていると、失っていた筈の景観に対する感性まで蘇るようである。

美味しいものを美味しいと思える感覚も蘇るかもしれない。

★え

え、とは俺にとっては絵であり絵画であり、心象風景であり、内面的な風景でもある。

実際の花鳥風月よりも、内面で想像する、月なり、自然の美しさにタンデキしてしまう傾向がある。これは、この人並み外れたイマジネーション気質は俺が天才だからではなく、そんなつまらんものではなくって、もっと哀しい、アダルトチルドレンゆえの習性であり、アダルトチルドレン・ACの方々にとっては、とても身近な感覚であろうかと推察する。

幼い頃、あまりにも物質的、精神的な修羅場の中で過ごしてしまうと、人間は防衛本能から、外部を遮断して、自分の中に潜るのだ。その結果、人並み外れのイマジネーションを手にする。めくらが、ニオイや音に敏感になるように、内面的な突出した感性が鋭敏になる。その結果もたらされるのは大多数の場合、成人してから、不幸の数々である。

内側に絵を描くな。

我々は人生にとって有益な、未来に向けての段取り、つまり薔薇色の「絵」を現実社会の中で自他ともども描きたいものである。

★お

お、とくれは、おっぱい、女。うーん、結局は女に始まり女に終わる。

父方の祖父は、生まれも育ちも兵庫県、神戸周辺で生きた人だった。駆け落ちして北海道に渡ってきた。しかも駆け落ちの相手とは結婚

せず、俺の祖母と結婚した。狸小路のヤシとして生涯を閉じた。亡くなる間際の最期の言葉は、

「おかあちゃん」

だったという。

おかあちゃん……。

祖父は自分の妻のことも、関西人だから、おかあちゃんと呼んでいた。

亡くなる間際の祖父が呼んだ「おかあちゃん」は、生涯、苦勞かけて先に逝ってしまった自分の妻のことだったのか、それとも若いころ捨てた故郷の実の「おかあちゃん」のことだったのか。

それを何年も考えていた時期がある。ある時、七十歳近い叔父に自分の疑問を投げかけてみた。生前の祖父をよく知っているオジサンに……。

するとオジサン、

「そんなの、自分を生んだ実の母さんと呼んだに決まっているべや」

との回答。

その意味が、自分も四十過ぎて、子供の親となり、我が四歳児の母親に対する傾倒ぶりを日々、目にしていたようやく理解できた。

・お

男。男は生涯、母親を求めて、母親と一体だった時代を懐かしみ、成長した後、ママに対する哀惜の延長線上に、別の女性を求めるものなのだろう。おそらくはそうに違いない。

あいうえお

かきくけこ

さしすせそ……

次は、「かきくけこ」です。

この五十音ボタン、さあ、みなさん、御自分の日記でやってみてくださいね！

……って、やるわけないべや

愛の無常について

きょうは昨日、仕事中に居眠りした罰があたったのだろう。朝から夜まで、分刻みの殺人的忙しさ……。いろいろあったが、何があったかは語るまい。

夕方、ほっと一息ついたころ、mixiのマイミクさんで、恋に悩む乙女から、何回もメールが来る。

今、困難な愛の中を生きていて、なんとか今の彼氏と結婚にたどり着きたい模様……。

おれの差しがねで手練手管てれんてくだの限りを尽くし始めているが、おれに相談するのが遅すぎた。

今、難局の中、孤独に一人、佇んでいる。

実際にはメールのやりとりを重ねたのだが、彼女とのやりとりを会話文にしてみよう。

「彼氏のこと、本当に愛しているの？」

とおれ。すると彼女、

「心から愛しています」

「君、心から本当に愛するということ意味分かっているの？ 自分を空虚にして、自分を差し置いて、彼氏のために自分の全てを犠牲にできるかい？」

「もちろん、自分より彼のことを優先できます」

と彼女は胸を張って答える。

実際、もう自分の幸福なんてどうでもいい、恋する相手の幸せだけが重要……真実そんな気持ちになった時、俺の体験上、想いは必ずや相手に通じるものである。そこには自我や我欲と呼ばれる感情の一切は排除され、想いも行為も全て相手の為だけのものとなる。

その時、恋の奇跡は起こるのだ。絶対に不可能な筈の恋は成就する。不思議なことに、奇妙なシンクロニシティー（偶然の一致）までが頻繁する。これは体験上の事実……。

そうして、相手の為を想う、祈りにも似た気持ちは、必ず通じるものである。

俺は、彼女の「愛」に疑問を覚えて、こんな質問をした。

「悪辣な独裁者がいるとする。今、愛する彼氏が、絞首刑になろうとしている。

彼は君のしている前で今にも死んでいこうとしている。

独裁者から、君に対して、ある条件が出される。

死んで行こうとしている彼氏の、ウンコ、熱々でホツカホツカのウンコが、ドンブリに山盛りでもらわれている。

独裁者は、

『もし、お前がこの山盛りのウンコを残さず食べたなら、この男の死刑を中止にしてやろう』

と、君にいう。君は独裁者に試される。

さあ、君は、新鮮で湯気のたっている、てんこ盛りのウンコを残さず食べることができるかい？」

「……………」

彼女は黙りこんで、しばらく考え込む。そうして、

「ウンコだけは、どうしても、絶対に食べられません」

と、答えた。

俺は、

「君の愛は真実ではない。だから想いが通じないのだ。真実の愛あるところ、風も、時間も、あらゆる事象が君の為に不思議と動くものなんだよ。」

死にいく彼氏のウンコが食べられないとするならば、この恋は諦めなさい。逆に、ウンコが食べられる心境になった時、この恋は必ずや成就するだろう」

こういう時、なんらかの信仰を持っている方は強い。祈る対象が、阿弥陀如来であれ、キリストであれ、エホバであれ、妙法であれ、とりあえず、彼氏の幸福を腹の底から祈ることができる。

祈り。

祈りは自己を強くし、また、空しくする行為。信仰の対象がなんであれ、祈りを継続しているうちに、どうしても死に行く彼氏のウンコを食べれない乙女は、山盛り、てんこ盛りのジュシーなウンチを腹一杯、食べれる乙女へと変容していく……。

ところが、この彼女には信仰がない。祈りがない。願望を実現させる古代からの「心術」も知らない。その結果、いくら想いつめても、この愛は、我執^{がしゅう}の延長線上の独占欲に他ならない。

独占欲では、森羅万象が見方にはなってくれない。

愛は無情であり、無常……。

あなたは、愛する人のウンコを食べられますか？

食べれないならば、それは真実の愛ではな〜いッ！

ちなみに俺は絞首刑で死に行く息子のウンチならば喜んでたべるでしょう。

え？ 妻のウンチですか？ そつたらもん、食える訳がない。でも昔の妖精のように美しく愛らしかったころの独身時代の妻のウンチなら食べたことでしょう。今なら、ドンブリを投げ捨てて、

「どうぞ、どうぞ、殺して下さい」

と、独裁者に逆に頼むだろう。

あなたは愛する彼氏、彼女、奥さん亭主の、取りたて、てんこ盛りウンチ、残さず食べられますか？

もしも、あなたが食べられる、と答えて、今にも臭いカタマリを口に運ぼうとした時、非道な独裁者は、突然、仏様の姿に変身する。

ウンチはウンチでなくなり、二人が一生、楽をして暮らせるだけの金塊に変わるのです。

さあ、どうですか？

哲学千夜一夜

「娘さんですか」

近所の公園で、息子と遊ぶ五歳のサユリちゃんを見ている婦人に俺は尋ねた。

若い……。

四十代に見える。下手したら俺と同じくらいの年齢に見える。気品もある。

もしかしたら、さっき名前を聞いたサユリちゃんのお婆ちゃんかもしれないな、と感じつつも、大事をとって、

「サユリちゃんのお母さんですよね」

「あら！ もうすぐ還暦なのよ。嬉しいわア。なんかないかしら」

婦人はベンチから立ち上がり、バックの中をまさぐり始めた。

「なんもいりませんよ。だって本当にママに見えたんだもの」

「まあ、嬉しい！ やっぱ気がすまないわ」

「それじゃあ、飴^{あめ}だま持っていたら、一つください」

俺は婦人から、ストロベリー味の、のど飴をいただいて、なめ始めた。

それから、世間話が始まる。

ふいに婦人が俺に、

「お父さんの仕事は、トラックでしょう？」

「よく分かりましたね。長距離やってます」

トラックのドライバーに見られたとは光栄だ。俺も嬉しくなる。

「私は、お掃除さん、幼稚園の掃除を専門にやっているの」

「ほう、それは貴重な仕事ですねえ」

と、俺は褒めたたえる。

それから婦人は、あれやこれや、一人で語り始める。こういう時は、聞き役に徹して適当に頷いていたら、相手が勝手に、こちらに好感を持ってくれるものだ。息子のことまで世話を焼いてくれたりし始めた……。

俺の思考は息子とサユリちゃんが交互に滑り台に登っているのを見ながら、また、虚空^{こくう}を、さまよい始める。

二十代のはじめ、俺は札幌市で学生をやっていた。

カール・グスタフ・ユングに凝っていた時期があり、その頃、ユングの著作を読みまくっていた。

お金が足りず、買えない本は、書店で立ち読みした。その中に、ユングが、ごく親しい友人・知人の為に綴った書簡の翻訳があった。こんな内容。

ある夜のこと、ユングが自宅でくつろいでいると、周囲から、不穏な空気を感じたようだ。

家のドアをノックする音、……何度、確認しても外には誰もいないのに、呼び鈴は鳴り続け、ドアのノブは、ひとりでに動いている。

怪奇現象……。

その後、様々なポルターガイスト現象が頻発する。

ドアを開けると何百人もの幽霊たちが、ユングの自宅に入ってきた。

ユングの母方の家系は、代々、霊媒の体質であった。霊媒の心理を分析した論文「心霊現象の心理と病理」が確か彼の出世作品だった筈。

ユングには幽霊が見えていた。幽霊たちの言葉も聞こえた。幽霊たちは、こんなことを言っていた。

「われわれは、真実を探して、世界中、いたるところの賢者の家を訪問した。どこに行ってもわれわれを救う真理は得られなかった。そこで今夜はここに来た」

カール・グスタフ・ユング……。彼は、怯えることなく、般若心経に似た、即興の詩を幽霊たちに捧げる。

幽霊たちは、納得して消えて行った……。

と、そんな話……。実際の出来事である。ユングの周りでは彼が死にいたるまで、そういった不思議な現象が沢山あったのだ。

つまり、言いたかったのは、この世が、目に見える世界だけだと思
っている方々、それは大変な間違いではないか、また、死んだら何
もかもオシマイだと信じて疑わない方々、死んでから生まれ変わる
為に、今の世での修行が、この世の旅です……と、そんなことを言
いたかった。死んでから、行き先を失い、世界をさまよい続けるよ
うな「モノ」にだけは、ならないでいただきたい、と。
それと、もうひとつ、……これは後で話す。

ところで、プラトンの「イデア論」というのをご存知だろうか。

プラトンは、若い頃から、ソクラテスとの対話を通して大哲学者と
なっていく。プラトンが悟った、この世の真実は、「イデア論」に
凝縮されている。

プラトンに言わせると、この世は、影の世界、映し出された世界に
過ぎないという。

実在するのは、イデア界だ。そうして、イデア界の向こう側には、
イデア（ひな型）をこの世に映し出す無限の光が燃えているという。

洞窟の例えは有名だ。

ここに一人の男がいる。生まれた時から洞窟に住んでいるから、外
の世界を知らない。外では、火が燃やされて、馬の模型や、机の模

型、船の模型、人間の模型……様々な模型が、炎の光に映し出され、洞窟の中の壁で、影となり、動いている。

洞窟の中の男は、洞窟しか知らないから、それを影とも分からず、現実と判断して、影の中で暮らし続ける……。

洞窟の中の男とは、もちろん、われわれ人間である。

さらに話を変えよう。

唯物論という考え方があつた。この世には、ただ物質のみしか存在しない……。

いや、そうではなくつて、全ては心でできているのだ……アメリカの精神科医・ダイアー博士によると、デカルトのあの有名な言葉、

●我おもう、ゆえに我あり

あれは唯心論の宣言だという。われわれは、高校の教師からデカルトのこの有名な言葉すら、正しく教わつてはいない。デカルトの言葉を使い換えるなら、

●私の心は存在している。ゆえに、世界は存在している

哲学的立場に立てば、唯心論と唯物論は、常に対立しあってきた。戦争も起きた。そうして今は、唯物論の時代である。資本主義も共產主義も、唯物論から生まれた、双子の兄弟であり、面白いことに、母親は、ユダヤ教という、「唯心論」ではないかと思う。

●初めに言葉^{ロゴス}があった。言葉は神と共にあった……（旧約聖書、冒頭部分）

これは唯心論である。「唯心論」の「心」を自己の中ではなく、自分の外に置くことで、西洋人達は、ここ数千年、ヨーロッパで、インドで、アメリカ大陸で、アジアで、大変な間違いを起こしてきた。

戦争の原因は、経済活動の爆発であった。爆発した供給は新しい需要を求めて、外へ外へと出て行かざるを得なかった。無理やり発生させた需要は今度は供給を求めて、……経済活動に歯止めが効かなくなった時、戦争が起きた。言わずもがな、近代のあらゆる戦争は、こういった資本主義の産物である。

資本主義に対する批判から、共產主義が生まれた。

そうして、二十世紀の共產主義支配による、肅清^{しゅくせい}に次ぐ肅清……。少なくとも一億人は共產主義の為に全世界で処刑されただろう。

●悲惨な唯物論も唯心論も、母体はユダヤ教・キリスト教である

ユダヤ教的、唯心論は、イスラム教やキリスト教を生み出し、キリスト教は資本主義を生み出し、資本主義に対するキリスト教の潜在的な復古運動の産物が共産主義であった。

●すべての不幸は、一つの言葉から、始まった。

すなわち……、

●初めに言葉ありき。言葉は神と共にありき

これが、この三千年の人類の「悲惨」の元凶ではないだろうか。

イスラム教、ユダヤ教、キリスト教……人類は戦争の絶えない歴史を歩んで来た。しかし、この三千年ほど、限度を超えた殺戮さつりくの時代はなかったと思う。

その元凶は自己の神性を外在化して、架空の神……一神教をつくってしまったユダヤ教的な「唯心論」である。

●全ての不幸の元凶は指導的な哲学の誤りから、きている

もとを正せば、根本的な哲学の誤りから、今の過労死の問題も学級崩壊も、ニートも、社会的な不気味な事件も、人間を手段化してしまった哲学の誤りから発生していると思う。

かなり難しい内容になってきた。ついてこれない方々も出てきたことだろう。

今回は、ユダヤ教的な唯心論に対抗しうる、そうして、はるかに凌駕^{りや}してあまりある、東洋的な唯心論について語ろう。

その唯心論を創設した者の名は、天台^{てんだい}……中国の、あの天台大師である。

天台の唯心論とユングの集合的無意識論、プラトンのイデア論から、立証してみよう。

何を立証するのか？ もちろんそれは、……。

●大宇宙は人間ゆえに存在している事実！

「のど飴、もうひとつ、いかが？」

気がつく公園にのベンチに座っている自分。向かいの婦人は、俺に、のど飴を再び差し出してくれた。

「長距離のトラックなら、時間が不規則でしょうねえ。お父さん、頑張っているわね」

「仕事ですから」

俺は、のど飴のお礼を述べると、四歳の息子の手をとり、春風の中の道を、ゆらゆらと歩き始めた。

「バイバイ、さゆりちゃん」

息子は振り向いていつまでも手を振り続けていた。

アダルトチルドレンのセックス

ブログのタイトルに「セックス」と入れたら、mixiでいつになく多数のコメントがくる。多くの足跡もある。

嫌ですねえ……。

女も男も、涼しい顔していながら、本当はセックスが好きでたまらないようですな。ま、俺も含めてね。

そこで、全国百万人の俺のブログの愛読者の為に、きょうは、

●アダルトチルドレンのセックス

について書いてみることにしましたよ。マリリンさん、読んでもるかい？

アダルトチルドレンって言葉は、聞いたことはあるけど、よくわからないという方々の方が多いと思う。

前にも書いたが、よく誤解されるように、「大人になりきれていない子供」という意味ではない。

最初は、1970年代のアメリカの、医療現場におけるアルコール依存症患者の世話をするソーシャルワーカーさん達などの人々から出た言葉。

最初は、アルコール依存症の親を持つ子供が大人になった姿のことを、アダルトチルドレンと呼んだ。

しかし、それがアルコール依存症だけの問題だけではないという認識が高まって、いわゆる、

●機能不全家族

の中で育った子供が、大人になった状態全般をアダルトチルドレンとして、広く解釈されるようになった。

機能不全家族とは、家庭の中で、アルコール依存症はもとより、ドメスティックバイオレンスや言葉の暴力、性的虐待、精神的暴力などがあり、家族として健全に機能していない家族のことだ。さらに、特に問題がないように見える家族でも、根本的に「本当の愛情」の欠落している家族も、機能不全家族と言える。

アメリカの、クリントン大統領が、

「私はアダルトチルドレンです」

と告白してから少し有名になった言葉。

実は、俺も典型的なアダルトチルドレンで、mixiでは、アダルトチルドレン・コミュニティの管理人をやっているほどだ。

アダルトチルドレンの人々は、幼い頃に夫婦喧嘩の仲介役になるなどしているうちに、健全な「自分」というものを確立できずに大人になった人々だ。

アルコール問題や、愛のない状況下で育った為に、

●自分は自分として当然に生きる資格がある

という「自己承認」ができずに、風船のように中身がないまま、大人になった姿。

だから、人間関係においても、まず、自分ありき、ではなく他人からの見た目、評価がそのまま自己認識となりやすい。他人ゆえの自分、になりやすい。

そこで、アダルトチルドレンのセックスの問題が浮上してくる。

アダルトチルドレンの人々は、自己確認行為を、他者との関係性においてしか認識できないから、いたずらに支配的になったり、極端に従属的であったりする。

俺から見ると、S Mプレイをするカップルは典型的なアダルトチルドレンであり、共依存の関係にあると思う。また、セックス依存症であるともいえよう。

俺自身、アダルトチルドレンだが、若い頃、アダルトチルドレンと思われる女性と交際した人数は、複数人にいたる。

アダルトチルドレンは、他人ゆえの自分だから、「ノー」と言えない。内心、嫌でも相手の要求を100パーセント実行してしまう。

「俺の精液を飲んでくれないか」

と頼んだら飲んでくれたし、ここでは書けないような変態的行為にも応じてくれた。

昔、東京電力OL殺人事件でも脚光を浴びたのが、この、アダルトチルドレンの問題。

この事件の場合、殺された彼女は、昼間は、やり手の東京電力という大企業の総合職のOL。夜の顔は、コールガール、つまり売春婦であった。彼女はまた、アルコール依存症でもあった。最後にはロボロになって、僅かな金銭でアジアの外国人に身を売り、挙げ句の果てに殺された。

具体的な金額は忘れたが、最後の頃、彼女が自分を売る値段は、一回につき、二千とか三千円にまで落ちていたそう。

彼女は大企業のやり手OLだったし、いわゆる「良い家」の令嬢だったから、数千円のお金が欲しかった訳ではないと思う。

お金という目に見える対価で、自分を「買ってもらう」ことでしか、自己確認できなかったのだろう。彼女と同じ職場には、昼間は高校の教師をやり、夜は売春婦をやっている女性もいた。

その女性に対するインタビューを読んだことがあるが、印象に残ったのは、彼女の、

● バランスを取る為に売春している

という言葉。

その女教師がアダルトチルドレンか否かは不明だが、本当に印象にのこるセリフだった。

若い頃の俺は、セックス依存症であった為、多くの女性と、関わり

を持ったことは、前回述べた。

若い頃の俺は、今でこそ汚いオヤジになったが、はっきり言って「水もしたたる良い男」だったし、スタイルも良かったから、女性に不自由したことはないが、勢いあまって、ソープランドに行ったことが合計、三回ある。

偶然だったのだろうか。

ことが終わった後、ヨモヤマ話をしていると、三人が三人とも、

「現在、精神科に通院しており、薬を飲んでいる」

と、告白してくれた。

そんなことが三回も重なったので、それ以来おれはソープランドには行かなくなった……。

これも以前書いたことだが、俺は若い頃、社会保険労務士を一時、廃業して、キャバクラのスカウトマンをやっていたことがあるし、ナンパ中毒であったから、ヘルスなどの風俗嬢をナンパしたことも多数。

色々な女性と話しをした経験から、今、言えることは、東京電力のOLではないが、「身を売る」女性には、やはり、アダルトチルドレンの女性が多いといわざるを得ない。

もちろん、異論のある方がいるのは分かっている。

アダルトチルドレンの女性イコール風俗嬢というわけでもない。

単なる、俺の経験談を話しているだけ。

話は飛ぶが、世界的に、精神科医という方々は、医学者から出た概念ではない、このアダルトチルドレンの概念について、認めない方も多いらしい。世界的に医学会はピラミッド型のカースト社会である。ソーシャルワーカーなどからできた概念など、認め難いのだろう。

数年前、たまたま、ある精神科医と議論する機会があった。やはり、アダルトチルドレンの概念には否定的であった。彼は面白いことを言っていた。

「精神病なんて、本当は無いのさ。アダルトチルドレンの問題も含めて、そんなものは、無い。」

狩猟民族的な特性を持つ人々が、現代の複雑な農耕型社会についていけないだけの問題さ。俺の持論だ」

なるほど、一理ある、と思った。しかし、アダルトチルドレンの問題に否定的なのは、やはり精神科医ゆえだろうか、と思った。

もちろん、アダルトチルドレンに対して専門的な治療をしている精神科医もいる。代表的なのが、精神科医の斎藤学氏であり、アダルトチルドレンに関する数多くの著作がある。

斎藤学氏によると、アダルトチルドレン回復へのガキは、幼い頃の出来事を、

●よく想い出して、

●回想と悲嘆に暮れる

この二点にあるという。

自分の生い立ちを想い出して、泣いて泣いて、……その涙の果てにアダルトチルドレンの回復があるという見解。

これも、俺の若い頃の経験だが、一頃、アダルトチルドレンの自助サークルに所属して、勉強会などにも参加していた。酒や女遊びに、いい加減、愛想が尽きていた頃の話。

色々なアダルトチルドレンの自助サークルに参加した。自助サークルの場合、共通したアダルトチルドレンの回復方法は、

●ハイヤーパワーへの気づき

であった。

ハイヤーパワーとは、自己超越の果てにある、自分の中の「聖なる存在」のことだと理解している。

クリスチャンの方は「神」そのものと理解しているようだが、クリスチャンでない日本人の場合は、仏教でいう「たいが大我」のニュアンスがしっくりくると思う。

「そうかい、そうかい……へえ、アダルトチルドレンねえ、そんな奴らもいるんだねえ」

と、あなたは思っていないか？

ここからは、俺の独自の見解になる。

日本に江戸時代、黒船が来て以来、日本人は相当に無理をして近代化を計った。そうして第二次世界対戦に雪崩れ込み、戦前から戦後にかけて、国家として完全な機能不全の状態にあったと言える。

父親が父親らしくない。

母親が母親らしくない……。

政治家が政治家らしくない。

坊さんが、坊さんらしくない。

先生が先生らしくない。

国家としての機能不全の状態は、外国人からミラクルピース（奇跡の平和）と言われた江戸時代が終わってから静かに始まり、戦中戦後に、物質的なピークを迎えて、今、更に、国家としての機能不全の問題は、精神的なピークに向かって突き進んでいると思う。

●機能不全国家

と、いうことは……。

アダルトチルドレンの問題は日本人全員の問題と言えはしないか？セックスに話を戻すと、例えばアフリカの、ブッシュマンのセックスは、動物のように、一瞬で終わると言う。

それに比べて、あなた達のセックスは、どうだ？ グチャグチャなことをやっているのではないだろうか？ 当たり前前に、

「それが、セックスというものだ」

と信じているのだろうか、例えば、江戸時代の標準的な方々が現代人のセックスのあり方を見たら、異常に見えるように思えてならない。

●あなたも、また、アダルトチルドレンな、の、だア！

噂に聞いたことがあるのだが、アダルトチルドレンの回復プログラムを企業の蘇生の為に取り入れている、アダルトチルドレン・コンサルタントみたいな専門の会社も日本にできたらしい。

企業の場合も、おそらくは、

●回想と悲嘆

●ハイヤーパワーへの気づき

という流れで蘇生させていくのであろうか？

今、日本人は、国家全体のテーマとして、

●回想と悲嘆（過去の総括と反省）

●ハイヤーパワーへの気づき（精神性に基づいた国家百年の計）

この流れを辿らないことには、ますます、ひどいことになるであろう。

しかし……。

そんなことを考えている政治家は、国会には、きっと、一人もいないであろう。

大不景気が始まって、日本人が、嫌でも、アダルトチルドレン回復プログラムの道を、辿らざるを得なくなる時は、来ると思う。

最後に……。

一度、骨折した箇所が、治癒したら前より太く強くなるように、アダルトチルドレンもまた、回復した人間は、普通の人間よりも、強く優しくなるという。

企業もまた、同じであろう。

そうして、国家も、民族も、同じ原理の筈である！

哲学千夜一夜 映写機

ユング、プラトン、天台^{てんだい}、この三人は、実は同じようなことを言っている。

人間の心の中の多重性……。

プラトン流に言えば、イデア（ひな型）を洞窟の中へと映し出す、根源の炎。

天台は、人間の中にある根源の炎……全てのエネルギーの源のことを九識^{くしき}として、もちろん、人間の意識の一番深い部分として説いている。

幼いころ、親戚にカメラマンがいた。うちの兄弟は、よく、親戚のオジサンのスタジオに遊びに行き、いらなくなったフィルムをもらってきて、箱で映写機を造り、壁に幕を張って映していた。

百ワットの電球を、長い箱にいれて、細工して、フィルムの映像を紙で造った大画面に映して遊んでいた。

この宇宙は、過去も未来も、チリ一つ漏らさず、実は、多重構造の潜在意識というフィルムに刻まれた、映像である。

●人間はこの世で最も精密な映写機である

もちろん、植物や動物、石ころにすら、その内奥では、根源の炎が

燃えている。それは同じ。

人間との違いは何か？

●意思である

天台は人間の持つ意思（一念）の力に注目して、一人の人間の意思が、宇宙（三千世界）に及ぼす影響が無限であると述べている。天台のこの理論の名前を、

●いちねんさんぜん
一念三千

と、天台は呼んだ。

仏教用語で三千大千世界というと、過去も未来も、あの世も、いま風に言えば、あらゆる多元宇宙を含んだ「全て」という意味である。

そうして、これからが重要なことだが、実は、現実が存在しているのは、逆説的だが、映像として映し出された「この世」の方であると天台は述べている

現実に存在しているのは天台によると、ユング的な集合無意識でもなく、イデア界でもなく、九識でもなく、あくまでも、現実世界なのである。

子供の頃、空き箱で造った映写機と、フィルム、フィルムに映し出された世界……。

それら全てを、ひっくるめて、

●人間

なのである。

我々の生まれてきた目的は、紆余曲折はあろうとも、

●意思の力で電球とフィルム、映し出された世界の統一を計ることである！

●その為に人間は意思を持つ

なぜ人間は意思をもつか。

●行動する為である。

人間が行動する場合、正しい哲学が根本になれば、戦争になるだけである。

また、正しい哲学があつたとしても、行動が伴わなければ、人間で

ある意味はない。

行動だけなら、サルでもタヌキ、キツネでもできるのだ。

人間には、ほんとうは、過去も未来も、あの世も、来世の世界すら変える力がある。その為に行動する！

今世の大成功のみならず、人間は本来、自由自在なのである。

宇宙は、あなたの、たった今の心の一念によってできている。

疑問点の残る方は、「天台」なり「九識論」なりでYahoo!やGoogleしてください。そちらの方が詳しい筈です。

実は、この天台流の正しい瞑想をしていた時期がある。十年前、参加者、数万人の札幌の芸術祭で芸術祭大賞をいただいた時、かなりこの修行をしていた。地方都市の芸術祭ではあったが、当時の自分には、大きな受賞だった。

この時、正しい思い（一念）により行動することにより、世界は自由自在だという印象を得た。求めるものは全て、得られます。人類の歴史上、誰かがやった程度のことは、あなたや俺にもできるのだ、と確信した。不思議なことが沢山おきた。

ただし……。

●正しい哲学により正しく行動しようとする時、宇宙にヘンマンす

る悪性の生物からの妨害が入るのは、事実である！

法難ほうなんに、出会うのは、聖人だけではありません。誰でも、正しい哲学で正しい行動に出ようとする時、難が起こります。

逆に言えば、難が起こらない行動は、哲学が正しくないと反省した方がよろしい。

中世、東洋の古聖こせいはこんな言葉を残している。二つ述べる。

●難が来ることをもってして、安心と心得なさい

●大きな難が来るということは、それを上回る大きな幸福のやって来る兆しである

と、いうわけで、この評判の悪い哲学エッセイ、本日を持ちまして、最終回といたします。

未だに自分の哲学の神髄は述べておりません。しかし、自分がなぜ、資本主義の人間でも共産主義の人間でもなく、

●人間主義

であるか、片鱗だけでもご推察いただけたならば、幸福。

ほんとうは、

●正しい哲学の維持のやり方

●正しい行動の取り方

●願望実現の為の方法

●妨害する悪性生物との闘い方

●死ぬ時の作法

まで、東洋の哲学から引用して述べるつもりでした。残念ですが、読者が引いているので致し方ないです。失礼いたしました。

十七歳の世界地図

サッポロでは昔から、二大不良高校として、「北海高校と札幌商業高校」が軽蔑されていた……。

「北海とか札幌さっぽろの奴ら」

と、呼ばれ、卒業後も、軽蔑される宿命だった……。両方とも学校法人、北海学園の中の男子高校……。サッポロには他にもワルの学校が沢山あり、

●どこの高校が一番、喧嘩が強いかな？

と、いう議論もあった訳だが、総合的には、間違いなく北海高校だったと言える。断トツであつたろう。勉強の偏差値は45くらいの高校だったが、北海道でのスポーツと喧嘩の強さの偏差値は、80に近いのが北海高校であつた。北海高校は札幌市民からの軽蔑の対象であつたが、バンカラな気風と男っぽさでは、札幌市民から一目おかれていた。

札幌の暴力団の世界でも、教師が残念そうに話していたが、

「北海高校を中退して、ヤクザになるのが、出世コースとみなされているらしい。金筋なのさ」

と、言っていた。

その北海高校に、自分は、レスリングをやりたい一心で、ギリギリ、なんとか入学した。自分は4月8日生まれであるから、入学した時

には16歳……。なぜ北海高校に入学できた（！）かというところ、中学校三年生の時、自分は、「馬鹿マツオ」と呼ばれて軽蔑されていたが、柔道の選手としても有名だったし、エロかったので、クラスで妙な人気があり、

「マツオを北海に入れてレスリングをやらせてやろう」

と、教師とクラスメートが一丸となり、テストの時にカンニングをさせてくれたからである。自分のカンニング行為があまりに目にあまるので、教師にクレームをつけた生徒から直接きいたのだが、

「担任の板垣先生が、『マツオは仕方ないんだよ。許してやろうよ。レスリングやらせてやろうよ』と、言っていたよ。返す言葉もなかったよ。お前、レスリングの道で頑張るしかないんだな」

と、言っていた。みんなの協力あって、北海高校合格。当時、北海高校のレスリング部は全道6連覇していた。

北海高校に入学したら、速攻で、顧問の早坂先生に申し込んで、レスリング部に入部。そうして、しばらく通ってこれからという時に、自分は母親から、レスリングを止めるように宣告を受けた。

当時の北海高校のレスリング部は、激しいトレーニングで、カタワ者が出るし、トレーニングや無理な減量から、死者まで出ていたことを母親が耳にしたためであろうか？ 放任主義の家庭だったが、あの時の母の、いつにない異常な程の強硬な反対は、なんであったのか？ 今、入院中の母が生きているうちに、質問してみよう……。

自分は、レスリングで有名になって、オリンピックに出て、中学校時代の初恋の加藤浩美さん（実名あけてやるぞ！）もしかしたら、

この文章読んでくれるかもしれないから」に認めてもらいたかったのだ……。それなのに、まだ、不思議と、まともな自我も目覚めていなかった自分は、母親の反対に反論することができずに、レスリング部、退部……。

大きな挫折であった。しばらく学校が終わると琴似のイトーヨーカ堂加工食品売り場でアルバイトをやっていたが、アルバイトも退職……。もちろん、北海高校の中ですら、成績は学年で限りなくビリになってしまった。そんな時、国語の時間に、芥川龍之介の、「羅生門」という小説に、自分は、ひどく感銘を受けて、文系部の早川先生にお願いして、文系部に入れてもらえた。ロクに漢字も書けない、掛け算の九九も言えない16歳の少年に早川先生は、実に親身に指導してくれた。中学校三年生の時の板垣先生と、早川先生は、人生の恩人である。

北海高校は、意外にも、文化系のクラブが伝統的に強かった。特に美術部と、文系部……。皆さんご存知の、植木等の「スーダラ節」の原曲は、旧・北海中学の音楽室で生まれたものだし、勝新太郎、演ずる「座頭市」の原作者も、北海の文系部出身である。文系部の先輩には芥川賞作家も直木賞作家もいた……。まったく、なんというか、不思議な学校である……。文系部顧問の早川先生にしても、文学のプロであった。

自分は芥川龍之介の「羅生門」や「トロッコ」等を、原稿用紙に書写することで、漢字を覚えた。

「バルザックは自分と同じくらいの年齢の頃、昏睡状態になるまで、読書したというぞ、よし、僕も、昏睡状態になるまで、読書してやろう！」

自分は狂ったように本を読んだ。やっぱり、根底には、告白することすらできなかった加藤浩美さんに、将来、芥川賞を取ること認めてもらいたい想いもあったし、……自分を馬鹿呼ばわりしてきた世間を見返してやろうという思いもあったのだ。

高校一年生の時には、全校柔道大会での自分の圧倒的な強さを目のあたりにした一部の同級生から、

「本気で、やったらマツオが学年で一番、ケンカ強いと思う」

と、言われていた。やっぱり、喧嘩か何かで退学させられてしまったが、クラスメートの谷口君と、廊下で、一戦交えたことがある。

俺が軽く谷口君の右腹に中段側面から蹴りを入れたら、谷口君、ガードしながら、俺の左足を掴んだ。

「おっと。こいつ、案外やるな」

と思って、自分は、左足を掴まれたまま、空中に飛んで、右足で谷口君の顔面にキックを入れた。倒れた谷口君に馬乗りになると、

「わかった、わかった。お前、凄いなア……」

と、両手をあげて降参。あいつ、今、何やっているんだろう？ ヤグザになっていなかったらいいのだが……。あと、自分の文系仲間間の同級生を愚弄したクラスメートに密かに焼きを入れたりもしていた。

昭和56年となり、自分は、高校二年生、17歳となった。クラス替えがあり、新しいクラスと担任がついた。

美術の時間に、後ろから、からかうみたいに、何度も頭や肩を叩いて来る奴がいた。あれは、おそらく、学年でも札付きのワルだったチョーマル君の仕業だったと思う。自分は眼鏡をかけていたし、頭ボサボサで、一見すると、弱々しいタイプに見えたのだろう。休み時間に入ると自分は、後列にいた三好君を選んで、

「誰が俺にちょっかい出した？」

と尋ねた。三好君を選んだのは、彼が、やっぱり、喧嘩自慢の、ワルだったから、適当だとおもったのだ。

知らないということは恐ろしいことで、三好君は、俺を見て、

「知らねえよ」

と、言った。

「言わなかったら、お前、痛い目にあうぞ」

と、俺は言った。三好君は、それでも誰が犯人か答えなかったので、自分は体格が自分と同じくらいの喧嘩自慢の三好君の180センチの体を掴んだ。だいたい20秒後には、三好君、俺に馬乗りになられて、ビンタの嵐を食らって、鼻血を出していた。俺は三好君が、犯人がチョーマルだと白状したら、速攻でチョーマルも秒殺する腹つもりだった。チョーマルにはワルの仲間がたくさんいたから、証拠を握った上で、痛めつけてやろうと思った訳だったが、三好君は口をわらなかった。三好君には、悪いことをしたと、今、思っている……。

そんなこともあり、それからは、自分は暴力沙汰には、一切関係ないところで、文学に専念できた。高校二年生の時に自分の発表した小説が新聞の書評に紹介された。校長室に呼ばれた。17歳の少年の小説が、新聞の書評に載るなど、当時は、前代未聞の出来事であったのだ。以来、文系部顧問の早川先生以外の国語教師は、自分に頭があがらなくなり、国語の通信簿は卒業まで無条件に五段階評価で五だった。

馬鹿マツオは、馬鹿呼ばわりされなくなった。自分は、いっそう、文学に精進した。いつの間にか、弁論能力も身についており、校内弁論大会で三年生をおさえて優勝したのも、17歳の時だ。当時は北海高校の弁論部もまた、顧問の新田先生の指導で、全国的に強力なクラブであったし、北海高校の全校弁論大会は、サッポロでは一目おかれていたから、やっぱり、俺はまた、新聞に、優勝者として名前が載った……。

そんなこんなで自分の17歳は過ぎていった。エネルギーの塊みたいな少年であった。三学期を迎えたころには、自分は、小学校からずっと自分を愚弄してきた、文部省、学校教育の洗脳体質に気がついていた。最初は芥川賞をとって告白すらできなかった加藤浩美さんに認めてもらいたい一心だったのだが、自分は、社会には、大きな悪が実在することに気づいていた。その時点では、巨悪の正体は、まだ見えていなかったが、十七歳の終わり頃には、文学をツールにして、巨悪と戦おうという決心もついていたのだ……。

豊平川の雪道を独りで歩きながら、ランランとした思いで、

「たった一人の戦争を起こす！」

と、決意すれば、さらにエネルギーが高まって、心は火の玉になっ

ていた。

「戦うぞ、戦うぞ！」

と、心の中、雪に肩をすぼめながら、決意していた。

自分は、サッポロの高校生の、戦前から続いた純文学系文芸ムーブメントの、最後の生き残りである。それは文芸部顧問の早川先生も、新聞のコラムで、俺の名前はださなかったが、認めていた。それが自分の原点である。

見えない巨悪との「たった一人の戦争」を決意した時には、自分の17歳は終わりに近づいていた。

以来、30年間、自分は地べたを転げ回るように生きてきた。転げ回りながらも、自分なりに戦ってきたつもりである。

今、自分は、46歳……。これからが本番だ。余生は、巨悪との戦いに、捧げたい……。戦闘準備は、できた。

巨悪……。

すなわち、お前たち、首を洗って待っているよ。お前たちにトドメを刺すまで俺は何回でも生まれ変わって、戦う。

……誰にとっても、17歳というのは、特別な年齢であろう。

自分の場合の17歳は、サッポロの片隅で、こんな感じで過ぎていったのだ……。

尾崎豊の歌に「十七歳の地図」というのがあるが、あの気持ちは、分かる……。

俺の17歳の地図は、尾崎豊みたいに派手ではなかったが、根底にある何かに共通項は感じる……。しかし、自分の一学年下の尾崎豊君の怒りは、社会や大人に対するものであった。幼い……。尾崎豊に、巨悪の存在が見えたのは、おそらく、早すぎる晩年の時代であったことは、歌詞を聞いていれば分かる……。

ちなみに、尾崎豊と自分の思想的バックボーンは、実は同じである。詳細は秘密だァ……。

もし、18歳の俺が17歳の尾崎君に会っていたならば、あんな死なせ方はしなかった……。と、勝手に、推測している臆病者だが、要するに尾崎君は、急ぎすぎたのだ……。

世界の経営コンサルタント ベスト10

●経営コンサルタント……。

なんとも曖昧な概念である。経営コンサルタントとは何かとなると、結論としては、

●経営コンサルタントと名乗る人（本人が名乗らなくても他人から経営コンサルタントと評価される人）

●経営コンサルタントとしての実力がある人

……この二点を兼ね備えて、初めて経営コンサルタントと言えるだろう。

俺は歴歷的に様々なタイプの「経営コンサルタント！」と交流をもってきたが、中には合法的な詐欺師のような人物が、あまりに多い。本物の詐欺師もいた。本当の実力のある方は実際、稀であった。…正直いうと、出会ったことがない。

中小企業診断士という資格があるが、所詮は官吏が机の上で、つくった資格制度である。だから上記二点を兼ね備えた人は、本当に少ない。

例えばある中小企業企業診断士の方がお客さんに、こんな指導をしている場面を目撃したことがある。

「人間には欠点と長所がある。欠点を無くす努力をして、長所を生かすべきである」

……話にならん指導である。まるで中学校の教師が「不得意科目を無くして、得意科目を増やせ」と言っているのと同じこと。ところが、現実社会は混沌としたジャングルであり、受験とは訳が違うのだ。

俺から観ると、世の中小企業企業診断士という人種の平均レベルは、中学校の教師レベルである。実際のこのジャングルでは、不得意科目は無視しても、得意科目を伸ばした方が、リアリティーがあるのは当然。

経営コンサルタントの発祥は、古代中国において、亀の甲羅などを焼いて占いを為政者に行う者とも言われている。亀の甲羅を焼いてできた模様が漢字の発祥でもある訳だが、実際に為政者は、この占いを元に政治を行っていた事実がある。

●経営コンサルタントの本質とは、占い師である。

……と思うこともある。事実、占い師の細木数子に経営相談を持ちかける経営者は、跡を絶たないらしい……。

しかしながら、合理主義的な、胡散臭くない経営コンサルタントの存在も確かな訳であり、今回は、世界の経営コンサルタントのベスト10を上げてみたいと思う。松尾大生が勝手に選ぶベスト10！

●松下幸之助

最初やはり、ピータードラッカーの名前をあげようとおもったが、ピータードラッカーがいかに現場主義の方だったとは言え、松下幸之助の現場主義、経験値には劣るだろう。松下幸之助氏の言葉の数

々には、経験と魂に基づいた本当のメッセージ性がある。

●ピータードラッカー

最近の日記では、よくピータードラッカーにふれる。彼の本質は、芸術家であつたと思つてゐる。事実、作曲家崩れであるが、彼の思考方法とは、どんなことでも、一度、芸術的なコンセプトに還元して、加工して、アウトプットする形にあつたと思う。また、サッカーを愛した方であつたから、何でもサッカーに一度、還元して、アウトプット……基本的に芸術家の発想である。

●ボブ・オーレン

フランス人の経営コンサルタントだが、「自己企業化」のコンセプトを発明した人物だ。これは、常々、俺が主張している個人事業主的メンタリティーの重要性と同じ意味だと思う。サラリーマンでも、自分という企業……。勤務先は単なる取引先。取引先はみずから開拓するのが事業主という者だし、割に合わない取引先は切る。終身雇用制はおわつたのだ。会社に依存する時代ではないし、多くの会社が求めているのも、実はこの自己企業化された人間である。

●ジム・ローラー

元オリンピック選手のコーチだつた方である。人間は時間の中を生きるのは必然だが、この方に言わせると、時間の中の人間ではなく、エネルギーを持った人間としての様々なエネルギーをマネジメントせよ、という教えだ。時間ではなくエネルギーをマネジメントすることが、高業績の達成と維持のみならず、健康で幸福な人生のバランスの鍵だと述べてゐる。例えば時間マネジメントでは休憩時間は無駄な時間と捉える方が多いが、エネルギー・マネジメントでは、

休憩時間は最も生産的な時間だという発想！

●エルマー・ホイラー

セールスを中心とした経営コンサルタントである。販売は断られた時から始まる……といった発想の元祖。俺は常々、恋愛においては、好きだということを明確に異性に伝えることが、恋の極意だと述べているが、そういうことなのだ。我々は、毎日のように、ニワトリの卵を食べているが、なぜアヒルの卵ではなかったか？ この方に言わせるとアヒルは卵を産み落とすだけだが、ニワトリは、卵を産む度に、卵を産んだことを声高く周囲に告げるから、……だという。恋人に恵まれない方も、売れないセールスマンも、ニワトリを見習うべきだと思う。意思を不自然じゃなく、明確に伝えること、……これは我々、案外できていないのだ。ニワトリを見習おう！

●ケネス・ブランチャード

一分間マネジメントで有名な方だが、彼のコンセプトは次の2つの言葉に端的に現れている。「生産性というものは結果であるのに、原因だと思っている方が多い。生産性というものは、自分自身の^{つまりはモチベーション}がよくなった結果として高まるものである」「魂の奥底から発したコンセプトでなければ、人は動かせない」……思うに、この2つの意味を両方とも理解している経営者には、出会ったことがない。

●ウォーレン・ベニス

いわば、修羅場哲学コンサルタントとしか呼びようがない。経営者はその年齢を問わず、少なくとも一回は尋常ならざる修羅場での苦悩の体験をし、これ乗り越えた者にしかリーダーの資格はない、と述べる。また、沈没した客船からの救命船にみなが群がって救命船自体が沈没してしまうように、平均的発想を否定する方。異端者

や変人経営者を奨励している。確かに、最近、社労士とか行政書士とか司法書士とか……資格救命船にみんな群がって、士業界が沈没しかかっている現実を見ているだけに、当たっているなア、と思う。

●ピーター・ブロック

芸術的発想をベースにした経営コンサルタントである。ドラッカーに通じる。従来のマネジメントは、能率や速度、技術、コスト、取引、利益等々をベースにしてきた。芸術的発想とは、驚きと発見、感情と想像、親しさと関係づくり、大きな可能性へのビジョン、商売よりも情熱、反省と対話の重視、未来志向の行動、圧力より支援を中心に、ユニークさを大切にして、直感主義を無視しないあり方……であろう。もはや、人事屋や財務屋出身の経営コンサルタントに出る幕はない時代なのだ。会計事務所のコサルタントに営業戦略まで指導を受けている会社が多いわけだが、お金払うだけ、無駄だ。時代の変化は、むしろ二十代三十代の経営者が体得している印象がある。従来型のマネジメントでは会社は伸びない。再びドラッカーだが、時間とは非連続であり、待ち受けるのは混沌である。

●渋沢栄一

古い方だが、ドラッカーが生涯、精神的な師と仰いだ人物である。ドラッカーと同じように、モラリストであった。松下幸之助氏とも通じるというか、ほとんど同じだが、松下幸之助氏より学のある方だ。「道德経済合一説」を唱えている。富とは、テクニックではなく、根元的な人間のモラリズムから生まれるものであり、モラリズムから生まれた富は、国民に限りなく分配するべきであるとする、経営者の鏡であった。松下幸之助氏もまた述べているように、会社の存在理由とは、良質な雇用の創出と、税金の支払いの二点にあった。変化に対応したより良いサービスを提供して、より利益を上げ

る目的は、より高額な税金を支払う為である。その税金が学校設備となりインフラとなり、セーフティーネットの財源になるというコンセプトが松下幸之助氏の基本理念である。松下幸之助氏といえども、経営者としては、小型の渋沢栄一のような人物に過ぎなかった。ここでいうモラリストとは、無論のこと、マナーや底の浅い道德のことではない。トランスパーソナル心理学でいうところの、自己超越的な、根元的なモラルである。ハイヤーパワーに基づいたモラルと置き換えても意味は同じだろう。つまりは大道である。

●日○○○○センチ

mixiでは俺の親しいマイミクで、世界を股にかけて、職場や家庭では女性からの股に挟まれている経営コンサルタントだが、仕方がないので末席に紹介しておく。俺と、同年輩。思うに彼の経営哲学はフロイト学説が根底にあると思う。つまりは人間のあらゆるパワーの源は、性的衝動にあると考えているように推測される。そうしてフロイト学説を実践されている模様だ。今は海外に在住だが、金庫の中には、お金や通帳ではなく、大量のバイ○グラのみが収納されているという噂も囁かれている……。確かに性的衝動は、経営者にとっては、大切なものだとはおもうが、定期的に心電図だけはどうって頂きたいと思う。バイア○ラは心臓にくるから……。

以上、10人。俺はこの二十年以上、無数の経営者を観察してきたが、この10人全ての条件に該当する経営者も経営コンサルタントも皆無だった。いたとしたら、今頃、世界的に名前を轟かせているであろう。

個人企業化の概念から言えば、サラリーマンの方や主婦、フリーター等々、全ての方は、経営者である。自分をマネジメントする必要

性があるが、もちろん、自分も含めて10人の全ての考え方を実践している個人にも、お目にかかったことはない。

思うに、経営コンサルタントとは、ワンマンアーミーの世界であると思う。世界最高規模のコンサルタントファームですら、ブランド力と実力ではピータードラッカーさんに劣るだろう。また、ドラッカーさんの経歴には、コンサルタントファームを持った事實は確か、無かったと思う。

ドラッカーさんにしても松下幸之助さんにしても、経営コンサルタント的な側面はあったろうが、経営コンサルタントだけで割り切れる方々ではなかった。

仮に経営コンサルタントとよんだが、事実上、肩書きのつけられない方が、真実の経営コンサルタントだと思う。松下幸之助さんにしても、単に松下電気の創業者だけでは、断じられない方であったし、ドラッカーさんにしても、あまり、経営コンサルタントと呼ばれなくなかったようだ。ドラッカーさんにとっては実は「日本美人史研究家」という肩書きが一番うれしかったのかもしれない……。

坂本龍馬しかり！

本当の大物には、肩書きなど、似合わないものだ。

だから皆さんも、自分から「経営コンサルタント」とか〇〇コンサルタントとか〇〇カウンセラーとかいう肩書きをつけて近付いてくる方々には注意されたほうがよろしい。

最後にランキング形式にしてみたが、実際は思いつくままに羅列しただけ。ランキングではない。しいて言えば、この中で一番偉大だ

と考えるのは、渋沢栄一氏である。渋沢栄一級の経営者や経営コンサルタントが現代日本に沢山いたら、今の不景気はなかったであろう。

ちよいエロ親父のセクハラSOS

よく、近所のセブンイレブンで煙草を買う。煙草をかったら、レジの機械から必ず二回、

「年齢確認をお願いします！」

と、音声流れる。もちろん自分は、いかなる場合も、可愛い女性店員からしか煙草は買わない。

年齢確認をお願いしますッ！ と機械の言っているから、俺はいつも必ず、女の子に、46歳のオヤジ面ぶら下げて、

「年齢確認してくださいよ！ 決まりなんでしょう？」

と迫る。

「いいです。年齢確認は、いいです」

と戸惑う女の子に、

「それは俺がオヤジだからかい？ 外見はオヤジでも、実は高校生かもしれないでしょう？」

「わかりましたから、もういいです。見逃してください」

見逃してくださいとまでいわれたら、引き下がるしかない……。

また、最近はあまりやっていないが、コンビニでエロ本を買う時、

やはり可愛い子を選別して、エロ本を差し出しながら電子レンジを指差して、

「温めてください」

と決まり文句のように、よく言っていた。可愛い店員さんの、こま
った顔をみるのが、エロ親父の楽しみなのである。

ビデオ店で、エロビデオを借りる時も、若い頃は、目が悪く耳も悪
いふりをして、

「このビデオの題名、確認したいんだけど、読んでみてよ」

と、なるべく可愛い店員さんに依頼。戸惑う店員さんは、仕事の義
務感からか、小声でエゲツナイ題名を読む。

「え？ 聞こえない！ もっと大きな声でハッキリ教えてください
！」

と俺がいうと、可愛い店員さんは泣きそうになりながら、

「『ペロペロ娘、おしゃぶり倶楽部』です！！」

などと、答える。俺は、その羞恥心の塊のような反応に満足して店
を去る。

結婚前のもっと若い頃は、デパートなんかは、セクハラ遊びの「デ
パート」でもあった。まずは地下の食材売り場に言って可愛い店員
さんを見つけると、並べられている商品を指差して、

「これ、食べでもいいですか？」

と、尋ねる。

「売り物ですから試食はご遠慮ください」

と、驚く店員さんに、

「食べてみないと、買えないなア！ こまったなア……」

などと軽く、からかいながらエスカレーターで一階の化粧品売り場に行き、美人の店員さんがいると、

「最近、肌の調子が悪くて……ファンデーションさがしているんだけど、色々試してみたいんだけど」

椅子に座り、顔面にファンデーションを塗ってもらう。鏡を見ながら、突然、美人店員さんの手を握りしめ、

「これ中止。なんか自分のインスピレーションと違うんだよなア？
次は口紅お願いします。最近、貧血気味で口紅の色つやが気になるんだよね」

美人店員さんの戸惑う姿が、可愛くて、喜びを覚える。当たり前だが、なにも買わないで、……そんな感じで美人の売り子を見つけた度に、ちよっかいかけて、からかって遊んでいた。もう、お金を使う遊びに飽きていたのだ……。

セクハラの限りを尽くしながら、最上階の方に上がっていくと、女性用の下着売場を発見する。ここでも当然、一番の美人店員さんを

発見すると、

「友人の女性から、頼まれてね。彼氏の為に、最高にセクシーな下着を買ってきてくれといわれたんだけど、俺、女性の下着に詳しくないから、案内してよ」

美人店員さんは、いぶかりながらも、これなんか、いかがでしょうか、と、恥ずかしそうに、セクシー系の下着を見せる。

「うーん、どんな下着が男心をくすぐるのかな？ 男が一番、興奮する下着って、どんな感じ」

「それは、ええと、ええと……」

既に泣きそうになっている。可愛い……。

「あ。あれなんかどうかな？ ちょっと、ちょっと、来てよ」

美人店員さんの手を取り、遠くの商品を手には、

「うーむ。いいと思うんだけど、イメージつかめないなア！ 店員さん、ちょっと、試着してくれない？」

と依頼すると、

「試着はいたしております」既に半ベソである。

「仕方ないなア。じゃ、俺が試着するから感想教えてくれない？」
美人店員さんは、半ベソを通り過ぎて、フラフラになっている。

そうして、今度は一階にもどり、デパートの案内嬢のいるコーナーに行き、

「すみません、大人のオモチャのコーナー、何階ですか」

と、尋ねる。

「申し訳ないですが、そのような売場はございません」

頬を赤らめる美人受付嬢に、

「ところで、君の被っているその帽子、お洒落だね。少しだけ俺にも被らせてよ」

既にこちらは顔面にファンデーション、口紅を塗り、スーツ姿……。

「そ、それは、できかねます。」

いいじゃないか、と押し問答の末、引き下がる訳だが、一度だけ、以前にナンパした覚えのある受付嬢が、あるデパートに座っていたから、半ば強引に、帽子を取り上げて帽子を被り、一回の売場を一回りしてから、帽子を返したことがある。他の受付嬢は、笑いをこらえながら、クスクスとやっていた。

若い頃というのは、セクハラにお金は一円もかからないものだし、お金のかからないセクハラの方が面白いものである。今回書いたことは創作ではなく、すべて事実である。皆さんもやってみるとよろしい。

題名に「セクハラ相談」とつけたから、セクハラを受ける女性から

の相談かと思っただけかもしれないが、それは誤解。セクハラしたい男性の為の「相談」である。視点を変わると、セクハラは材料は、いたるところにあるものだ、友よ。

上記のようなゲリラ的なセクハラする場合にも、やはり気をつけなければならぬのは、どこかにギャグの要素を入れることである。一時は半ベソかいた美人店員も、数年後に思い出して、笑うくらいのインパクトを残すこと！

他にも、

●セクハラ美容室編

●セクハラ飲食店編

●セクハラ地下鉄編

等々、無限にあったが、訴えられたことは無い。水割りのウイスキーをぶっかけられたり、殴られたことはあるが、痛くも痒くもなかった……。

例えば、少し混んでいる地下鉄の中で美人を見つけると、隣に立って、美人の耳元に、小声で、

「今、俺のお尻触ったでしょう？ 勘違いだったことにしてあげるから、もうやめるんだよ」

などと囁く。反応は様々だが、あれも面白かった……。

●セクハラ道！

これは奥が深い。女性の嫌がる言動を百も承知の上で、断行するのだ。そこに少しでもギャグと意外性を入れる。男性から一番されたくない嫌な言動とは、女性にとって裏を返せば、弱点なのである。

女性の心理というものはコントロールするものであり、女性の心なんて、読む必要はない。最初は嫌われてなんぼという面もある。マインスインプクトでも、残さないより残した方がいい。女性は意外性に弱いから、マインスインプクトを転換させると、グラツとくるものである。

ただし、小さな権力や立場を利用してのセクハラだけは厳禁だ。そんな、ちっぽけなセクハラしかできない奴はデパートで修行して来たまえ。一円もかからない……。

メッセージ

自分は十五年弱むかし、放蕩が祟り、ファームを一時休業して、約六年間、転げ回って生きていた。破産寸前にいたり、自分には何もなくなった。六年間はおもに営業の世界に生きていた。全てを失った時、もはや自分には、他者へのメッセージしかできることはなかった。車すら手放していた。

これから書くことは、今、理解できなくても宜しい。

●死すら覚悟した人間のギリギリのメッセージは必ず相手に伝わる。そういう精神状態になれた時、テクニクは後からではなく同時についてくる。

自分はある六年間で、その真実を学んだ。だから、どこに勤務しても、営業に関しては、予期せずして、常にトップが、トップクラスになっていた。

ツイッターでは戦略的なテクニカルな実践的経営学の技術を呟いているわけだが、本当は違うのだ。死すら観念したギリギリのメッセージこそ、大切なのだ。戦略や技術は同時についてくる。繰り返し後からではない。

当時の自分の心境は、例えば尾崎豊の「forget men
ot」や一青窈の「ハナミズキ」と、まるで同じだった。だから数万展出展の芸術祭で一位になった。

本当に成功したいならば、小手先の芸に走らないことだ。小手先の技は同時についてくる。本物のメッセージとはいかなるものか、尾

崎豊の forget me not や一青窈さんの「ハナミズキ」を聴けば理解できる筈なのだが……。今は分からなくていい。ただ、記憶に留めておいていただきたい。分かる日が来る。

ツイッター、眩き中。読んだら、幸せて、メッセージって何か分かるかもしれない。メッセージとは、死を覚悟した心境でのギリギリ、乾坤一擲の言葉である。通じない訳がないのだ。

ツイッター <http://twitter.jp/user/08055844657/follow> 読むべし。メリットが理解できたら、貴方は勝利者となる！

四月八日は俺とお釈迦様の誕生日

ついに四十六歳になってしまった。

はやいものだ。

今日はブツダの誕生日でもある。ブツダ、……つまりお釈迦様、……ゴータマ・シッタルダ。

ブツダは古今東西、俺の最も尊敬する人物の一人だ。

だから、自分の誕生日が来るたびに、ブツダの生涯を想う……。

恒例行事のように、ブツダの生涯を想う……。

諸説あるようだが、ブツダは、三十代の時、森林の中の菩提樹の木の下で瞑想中、ついに生死を超えた。悟りを開いた……。

ブツダが悟りを開くまでの様子は、ハリウッド映画の「リトルブツダ」の中で、凄い映像として、描かれていた。あの映画自体は、B級作品だとは思いますが、ブツダが悟る前後の悪魔からの攻撃シーン等は確かに凄かった。

しかし……。実際は、あんなもんじゃなかったことだろう。

思うに、古代インドには、ブツダと同じように解脱げだつした人々は、複数いたと思う。

ブツダの偉大なところは、解脱した後、瞑想をやめたかった点であ

ろう。

なぜ、瞑想をやめなかったか。それは、

「自分が今、つかんだ真実を、いかにして民衆に伝えようか」

と、模索する為であった。そうして、民衆救済の方法を一通り思索した後、瞑想は終わった。

それから、ブッダの人生の長い旅は始まる……。半世紀近くにわたり、生涯に数百人から一千人もの人々を、自分と同じ悟りに導き、……そうして去っていった。

いつか、20世紀インドの思想家のクリシュナムルティーという人物のことについて、少しだけ、日記の中で触れた。

彼もまた、若き日、恵まれた環境の中で、瞑想によって、解脱した。そうして生涯が終わるまでに、長い対話の旅を続けた人物だった。ところがクリシュナムルティーの最後の言葉は、こうだ。

●誰一人、私の真意を理解する者はいなかった

クリシュナムルティーは、半ば失意の中で、去っていった。

なぜか？

最初のブッダ、……ゴータマⅡ釈迦が悟りを開いた後、千人近くの人々が、釈迦の指導によって同じ悟りに至ったことは、先に述べた。

ブッダとは、覚者という意味である。最初のブッダは、一人であっ

た。彼は釈迦族の王子として生まれ、青年時代、王宮の4つの門から外の様子を見たのを契機として、人間の「無常」を感じて、出家にいたる。……そうして長い試行錯誤の末に、菩提樹の下での悟りに至り、最初のブッダとなった。

最初のブッダは表現力に長けた天才的な「教育者」であった。そうして、生涯、千人近くの「ブッダ」を、生み出した。

ゴータマが真に偉大だったのは、その教育者としての実績であったと思う。

では、なぜ、クリシュナムルティーにそれができなかったのか？

また、話は古代に遡る……。

最初のブッダが去った後、複数のブッダによって、更に、ブッダは増えた……。今でいう大学のような施設の中で、ブッダ養成教育と研究が行われていた時代もあった。

やがて、時は流れて、仏教は中国にわたり、更に発展する。

例えば、西洋でいう西暦に入ってしまったら、やはり、中国の、ある若者が、瞑想していた。瞑想方法は既に多数のブッダによって、確立されていたのだ。

若者は、瞑想を続けた。最初のブッダの時と同じように、悪魔からの様々な妨害に襲われた。いよいよブッダになろうとした時、瞑想中の若者の前に悪魔が若者の老いた母親の姿となって、瞑想を止めるように、若者の膝に泣きすがって来たそうだった。若者は、老いた母親の説得に負けなかった。そうして、ブッダとなった……。若者は

後に、やはり教育者となり多数のブツダを輩出した。彼の名前は、天台てんだいと呼ぶ。天台宗の開祖である。

このように、最初の一人をブツダという場合もあれば、覚者を全てブツダという場合もある。ブツダと言っても多様なのである。

古代、そんなブツダ達の中から、ある重要な未来に関する予言がなされた。

最初のブツダの生きた時代から、だいたい、（これも諸説ある）今という中世初期くらいの時代までを、二つに分けた。

●まだ、人間の心が穏やかで直感にすぐれ、悟りやすい時代

その次に来るのが、

●人間の心は汚れて、直感力も落ちるが、まだ少数の者ならばブツダになれる時代

そうして彼等はその後に訪れる3つ目の時代として、

●人間の心がすっかり汚れてしまい、直感力は消滅し、従来の修行方法では悟れなくなる時代

彼等はこの最後の時代を、「末法まっぽう」と呼んだ。

だから、中世くらいから、現在、未来にわたり、末法……。勿論、今は末法の時代である。

末法の時代は、古代のブツダ達が予言したように、最初の一人と同

じ修行方法では、悟りに至れない。末法には末法の時代に即した修行方法が必要である。そうして、中世、末法の僧侶の中に、その修行方法を開発した者が東洋にいた。彼はブツダとなった……。再び多数の末法のブツダが誕生する。東洋における末法のブツダは、最初の一人のブツダの時代に比べて、それだけ厳しく汚れた時代の中でブツダになった人々だから、

「最初のブツダ程度のブツダになるのは、たやすいことだ」

とすら、述べている。それだけ、末法のブツダの価値は高いということだ。

クリシュナムルティーに話は戻るが、クリシュナムルティーは、末法の時代なのに、「時」を読むことができなかったのではないかと俺は思う。現実問題として、予言にこだわるまでもなく、現代人の心が、最初の一人……ゴータマ（釈迦）の時代より汚れきり、直感力も無くなってしまったことは、歴史の研究により明らかなことだ。

それなのに、クリシュナムルティーは、最初の一人の修行方法と同列の「時」に即さない修行方法を人々に教え、そうして最後のあの言葉、

●誰一人、私の真意を理解する者はいなかった

と告白した。

クリシュナムルティーは、たまたま、天才的なミュータントのような人物で、自分は悟ることはできたが、より価値の高い末法のブツダではなかった……。最初の一人と同列の修行方法に拘泥しすぎたのだ。

思考実験をしてみる。

もし、あの方、最初の一人のブツダ……お釈迦様、つまりゴータマを、タイムマシーンで現代に連れてきたとしたら、……。おそらく、現代人の心に即した、より効果的な修行方法を開発することであろう。その修行方法は古代とは、全く別の形になると思う。ゴータマがどんな手を打つか、想像もつかないが……。

ところが、ところが、最初の一人であったゴータマの修行方法どころか、古代、ゴータマ（お釈迦様）が菩提樹の下でブツダになるまでの、とっくの昔に卒業した、断食や、身体に苦痛を与えるようなお釈迦様が後年、意味がないからと禁止した筈の、バラモンの修行を今でもやっている方々がいる。

お釈迦様もバラモンの修行はしたが、卒業してから、時を経て、ようやく菩提樹の下に至ったのに……。クリシュナムルティーを例に出したが、お釈迦様の修行方法ですら現代人には「無理！」な筈なのに、お釈迦様の時代以前の修行方法を現代でも、やっている方々が、沢山いる。インドにも、中国にも、朝鮮半島にも日本にも……。バラモンとは、お釈迦様以前のインドの修行者達のことだ。お釈迦様もバラモンだった時代はある。彼等の修行方法は、ヨガ等を代表として、現代にも多数のこっている。

確かに断食したら、精神的にクリアーになると思う。良いことだ。

しかし、ブツダにはなれない。

ヨガを実践したら、方法次第だが、寿命が伸びるし、精神的な汚れは落ちるだろう。少しは超能力も発現するだろう。古代のバラモンの中には念の力だけで大木すら、なぎ倒す方々がいたそうだ。大木は無理だろうが、スプーン曲げ位は簡単にできるようになるだろう。精神的にも豊かになるだろう。しかし、……ブツダにはなれない。

タイムマシンでお釈迦様を現代に連れてきたら、断食やヨガ、滝行、護摩を炊いて祈禱する人々や、座禅を組む方々に対して、まず、

「無駄なことは、おやめなさい」

と言うに違いない。

ましてや、自分の姿の彫刻（仏像）や絵を拝んでいる人々を見たら、呆れて、空いた口が塞がらなくなるだろう。

彼は瞑想に入るだろう。そして最初の菩提樹の下で、民衆の救済方法を模索した時と同じように、現代人の救済方法を模索するだろう。そうして、必ずや、その方法を見つけるに違いない！

その時、俺は、妻と、愛する息子に別れを告げて、お釈迦様の弟子のアーナンダのように、お釈迦様の、新たな旅に付き添うに違いない。思考実験終了！

いったい、世界中に、自分は、お釈迦様の生まれ変わりだと称する方々は、何百人いることだろう。いや、何千人かな？ 日本ではオームの麻原さんがお釈迦様の生まれ変わりらしいが……。

「たいがいにしなさい！」

と、彼等に言いたい。いったいどこまで惚けているのだ。

もっと真摯に人間の本质について悩みなさい……と、言いたい。

誕生日が来るたびに、最初の一人……お釈迦様の人生を想う。その人間性をしのぶ。

そうして、また一歳、オヤジとなるのだ……。

コメント

イイネ！ (0)

コメント

どめすていっくバイオレンス

十年ちよと前、まだ、独身の頃、今の息子の実の母親と、まだ結婚する前、……彼女と札幌の琴似の街を歩いていた。

今の妻がそばにいるのに、……ハッと息を呑むような、スタイル抜群の妙齡の美人と目が合ってしまった。ハーフのような顔立ちの、若い頃のジョディー・フォスターそっくりの美女。琴似のモスバーガーの店の前あたりだ。美人は声をかけてくれ、……という合図を目線で送ってきた。ところがそばに、今の妻がいた。……俺と美人が、目と目で会話しているのに気がついた今の妻が、怒り始めたから、さすがに美人に声をかけることはできなかったのだが……。

ちょうどその時、モスバーガーの横の路地で、二十代半ばくらいのガラの悪いチンピラ風の男と、その彼女らしい二十代前半くらいの女性が激しく口論を始めていた。

挙げ句、ガラの悪い男は、自分の彼女に、暴力を振るい始めていた。殴る蹴る。髪の毛を鷲掴みにして、地面を引きづり回していた。

俺は美人が去って行くのを指をくわえて眺めつつ、暴力男も観察していた。

（暴力はプレイ中だけにしておけよ）

と内心、舌打ちしていたら、やはり、横から暴力男を見ていた今の妻が、

「助けてあげて……」

と、俺にいう……。

仕方ないから、暴力男に近づいて行き、暴力男の腕をつかみ、

「クオラッ、やめろ……」

と低音でドスをきかせてカツを入れた。俺は今でこそ温厚な中年オヤズになったが、当時はまだ、外人等とのストリートファイトで鍛えたドメスティックな迫力が残っていたのだ。我ながら、迫力のある兄ちゃんであつたとおもう。

暴力男は、ビビって自分の彼女に暴力を振るうのをやめて、

「すみません」

と俺に謝ってきた。

「ボンズこら、謝る相手がちがうだろう？」

と、今の妻が見ていたので、本当は、さっきの美人のことで頭が一杯の癖に、格好をつけて、良い人のふりをしていたら、暴力を振るわれていた女の子が四つん這いになりながら、俺のことを見上げて、さすがのような表情で凝視していた。あの時の涙でグチャグチャの顔が忘れられない……。

解決したし、今の妻にも格好いいところが見せられたから、俺は急いで、さっきのジョディー・フォスターを探した。もういなくなってしまうていた。ジョディー・フォスターを探している間に、暴力男とその彼女も、消えてしまっていた。

あのカップルは、一時は暴力を止められたが、その後も、暴力の関係は続いたことだろう……。

俺の印象では、だいたい四人か五人に一人くらいの割合で、女性に手を上げる、暴力男は存在していると思う。

ドメスティックバイオレンスは世代間伝播するものだから、暴力男本人も、抑制が利かないと、本で読んだことがある……。各種の依存症と同じなのだ。

意外だったが、マイミクの方からコメントで教えられたのだが、こないだ亡くなった小説家の井上ひさし氏も、酷い暴力夫だったらしい。妻を、顔が腫れ上がり変形するまで、ゴム鞠のように殴っていたのが日常茶飯事だったみたい。井上ひさし氏のファンだった時期があるだけに、非常に残念だった。

俺？

もちろん、合意のもののプレイ以外では女性に手を上げたことは一度もない。

それどころか、今は妻から、毎日毎日、言葉の暴力を受けている。時には、軽く蹴られたり、パンチされることもある奴隷の生活だ。

妻からの虐待を防衛する為に、区民センターからもらってきたドメスティックバイオレンスの避難所、シェルターのパンフレットを電話の上の壁に貼って、

「いざとなったら、息子を連れて駆け込むからな！」

と牽制しても、一向に通じなかった……。

まあ、俺は、いいんだ。言葉の暴力で常に胃は痛い、息子からの愛情を人質に取られているから、耐え忍ぶ奴隷の暮らしに甘んじよう。息子、命……。

問題は世間に数多い暴力夫の存在だ。

なぜ、女に手を上げるのだろう。プレイならばわかるけど……。

ドメスティックバイオレンスを振るう男性の自助サークルって、聞いたことがない……。あるのかな？ 無いのなら断酒会などをモデルにして、抑制の効かないドメスティックバイオレンス夫の誰かが率先して作るべきだと思う。

ドメスティックバイオレンスの結果、選択肢は二つしかないであろう。治療か、離婚である……。

ドメスティックバイオレンス夫は、刑務所か精神病院にしばらくブチ込んで、頭を冷やさせばいいかもしれない……。

世の女性達よ、結婚前に、ドメスティックバイオレンス男かどうか、見極める目を持って欲しい。

ドメスティックバイオレンス男は、恋愛時代時代は優しいように見えても、結婚してから豹変する奴らが多いみたいだから……。くれぐれも、気をつけるべし。

残念ながら、彼氏の親やその親に、ドメスティックバイオレンス夫

がいなかったか、さりげなく上手に尋ねるくらいしかないかな。あと、ドメスティックバイオレンス男の人相。爬虫類系の人相の男には、いくら格好よく見えても注意。井上ひさし氏じゃないが、男は人格が顔に出るから、顔の造作は別にして、品のない男性にも注意。行動や言葉づかいは、いくらでも擬態することは可能だが、人相に現れる品性の汚さ低さは、どんなに美男子でも隠せないもの。

ところが、恋は女性を盲目にさせるもの。判断はおそらく不可能だろう。

できれば彼氏を経験豊富な年輩者に、たくさん会わせて、意見にしっかりと耳を傾けることだ。

気をつけて……。

ところで……。

あのジョディー・フォスターちゃん、今頃、どうしているだろう。いい女だったなァ……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6632q/>

札幌 経営コンサルタント 松尾大生 超絶エッセイ集

2011年8月14日01時52分発行